

令和3年度
特色ある学校・園づくり支援事業
報告書



令和4年3月
所沢市教育委員会

目次

まえがき・・・・・・・・・・1

I 小学校

所沢小学校	2
南小学校	3
北秋津小学校	4
荒幡小学校	5
北小学校	6
清進小学校	7
明峰小学校	8
伸栄小学校	9
美原小学校	10
並木小学校	11
中央小学校	12
松井小学校	13
若松小学校	14
安松小学校	15
和田小学校	16
牛沼小学校	17
柳瀬小学校	18
東所沢小学校	19
富岡小学校	20
西富小学校	21
中富小学校	22
小手指小学校	23
上新井小学校	24
北野小学校	25
北中小学校	26
山口小学校	27
泉小学校	28
椿峰小学校	29
三ヶ島小学校	30
若狭小学校	31
林小学校	32
宮前小学校	33

II 中学校

所沢中学校	34
向陽中学校	35
美原中学校	36
中央中学校	37
南陵中学校	38
東中学校	39
安松中学校	40
柳瀬中学校	41
富岡中学校	42
小手指中学校	43
北野中学校	44
山口中学校	45
上山口中学校	46
三ヶ島中学校	47
狭山ヶ丘中学校	48

III 幼稚園

所沢第二幼稚園	49
---------	----

まえがき

所沢市では、心豊かにたくましく、創造的に生きる幼児、児童・生徒の育成を目指し、平成13年度より「特色ある学校・園づくり支援事業」をスタートさせ、市立幼稚園1園、小学校32校、中学校15校それぞれの特色ある学校・園づくりを支援してまいりました。

各学校、幼稚園では、特色ある学校・園づくりの宣言文を掲げ、地域の人材や環境を生かした創意工夫のある教育課程の編成・実施など、幼児、児童、生徒が生き生きとした生活を送ることができるよう教育活動を展開しております。

この報告書は、各学校・園の1年間の活動をまとめたものです。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がありましたが、今年度は「コロナ禍だからできない」から「工夫することで何かできないか」という視点にたった実践が多くありました。他校や園の取組を参考としていただき、特色ある学校・園づくりを一層推進されることを願います。

また、各学校・園におかれましては、自ら点検や評価を行い、その結果を検証するとともに課題を把握した上で、教育課程や指導方法の改善に努められることを期待します。

あわせて、この報告書をとおして、市内47校と1園の特色ある学校・園づくりの概要や成果を広く市民の皆様に公表してまいります。

今後も、市教育委員会では、予算や施設設備、人的配置など、可能な限り、学校・園の自主性や自律性が生かせるように配慮し、一層、特色ある学校・園づくりを支援してまいります。

令和4年3月

所沢市教育委員会

所沢市立所沢小学校

家庭・地域・教職員が一丸となって、温かい心を自ら育み、
より賢く、より逞しくあろうとする児童を育成します。

1 特色ある学校づくり概要

歴史と伝統を受け継ぎ、活気あふれる教育活動を展開している。

- (1) 所沢中学校区による小中連携の推進
- (2) 学校課題と解決策を明確にし、組織を活かした計画的な教育活動の推進
- (3) 地域の教育力を活かし、児童の体験活動を充実させ、温かい心を育み、より賢く、より逞しくあろうとする児童の育成
- (4) 児童が主体となって活動する環境教育の推進



後援会 チューリップ植え

2 具体的な活動の紹介

所沢中学校区による小中連携「所澤学校」を推進するため、年3回中学校区三校連絡協議会を行ったり、夏季研修では3校合同で教職員が研修会を行ったりするなど、日頃より児童・生徒についての情報共有、組織的な対応を行った。

学校課題に対しては、運営委員会を中心に、教科領域主任をリーダーとして組織的、計画的に課題解決に取り組んだ。教職員の質を高めるために、外国語活動やICT教育の授業研究、ジェンダーフリー研修会等に取り組み、理解を深める充実した活動を行った。

生活科(2年)では、商店や図書館、福祉施設等の地域の施設を見学したり、総合的な学習の時間(4年)では、福祉施設等で働く人々との交流や体験をしたりして社会の一員であることを学んだ。

後援会の協力により、地域と協力した活動も様々行っている。「花*プロジェクト」では、ひまわり(種)やコスモス(苗・種)を、教職員や子供たちが一緒に植えたり世話をしたりすることができた。また、11月に後援会の方が50人以上集まり、2000個のチューリップの球根を学校花壇に植えていただいた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

子供たちに、充実した行事や体験活動、本物に触れる体験の機会を多く設けることができた。それらの学習を通して、子供たちに確かな学力と自己肯定感を高め、豊かな心を養うことができた。きれいな花が咲いていてうれしい。(子供の声) コロナ禍で最善の教育活動を実施して頂けていると感じている。

(保護者の声) 学校だよりから子供と真摯に向き合っている事が伝わってくる。(地域の声)

「やさしさと笑顔にあふれ、共に学び合い、力を発揮する学校」の創造

— すべては子供たちのために —

一人一人の子供を大切にした、多様な教育活動の推進
学ぶ喜びを味わわせ、主体的に学ぶ授業の創造
児童が安全で心豊かに学ぶための教育環境の整備
家庭・地域との連携を深め、地域とともに歩む学校の推進

1 特色ある学校づくり概要

本校は「すべては子供たちのために」を合言葉に、学校・保護者・地域が一丸となって、以下の方針のもと心豊かな児童の育成を目指している。

- (1) 一人一人の子供を大切にした、多様な教育活動の推進
- (2) 学ぶ喜びを味わわせ、主体的に学ぶ授業の創造
- (3) 児童が安全で心豊かに学ぶための教育環境の整備
- (4) 家庭・地域との連携を深め、地域とともに歩む学校の推進



【車椅子で校内の段差を体験中】

2 具体的な活動の紹介

本年度、特に力を入れた取り組みは、(1)一人一人の子供を大切にした、多様な教育活動の推進である。具体的には、ゲストティーチャーや地域の人材を活用して、次のような体験活動の充実を図り、成就感を味わわせてきた。① 6年生社会科に講師を招聘しての平和学習、税の学習 ② 4年生総合的な学習の時間に講師を招聘しての手話、盲導犬、車椅子等による福祉学習 ③ 3年生総合的な学習の時間に文化庁から講師を招聘しての多様性を知る学習 ④ 家庭科、理科、花ふきんクラブに講師を招聘しての専門性の高い活動の実践

以上、感染症対策が必要な中、十分な体験ができない活動もあったが、多様な体験活動を行い、児童の健全な育成を目指した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

活動を通して、以下の声を聴くことができたので成果ととらえ次年度に活かしていきたい。

- 車椅子体験を通して自分たちは気にならない少しの段差でも大変な思いをしている人がいることを学ぶことができた。(子供)
- 感染症対策が必要な中、授業や行事等の実施を可能な形で実現していただけで学校に感謝している。(保護者)
- 子供たちと関わる場があることは生きがいである。(地域)

子供を大切にする学校 北秋津小

— 学校・家庭・地域が一体となって「笑顔と挨拶、美しい歌声が響く学校」を創ります —

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「子供を大切にする学校」を目指す学校像とし、「地域と歩む学校づくり」を推進しながら、人とのつながりを大切にした教育活動を展開している。

学校教育目標の具現化を図るため、以下のような方針で特色ある学校づくりを推進している。

- (1) 確かな学力を土台とし、豊富な体験から学ぶ児童の育成
- (2) 学校・家庭・地域が一体となった児童の学力・体力・豊かな感性の育成
- (3) 学校環境の整備を通じた学びの場づくりの推進



2年さつまいも収穫活動

2 具体的な活動の紹介

(1) 豊かな心の育成を目指して

- ・地域人材の指導により、農業栽培、稲作等の体験活動を通して豊かな感性の育成が図られた。
- ・福祉サークル団体の方々から手話や車いす体験、聴覚・視覚障害についての学び、互いに支え合うことの素晴らしさを体験することができた。

(2) 保護者・地域の力の活用

年間を通して地域の安心安全ボランティアの方々や保護者に児童の登下校の見守り活動を実施していただいている。毎日の活動を通して、顔の見える関係づくりができています。

(3) 子供たちの学びの場の人的環境づくり

1、2年生においては地域人材を活用し、英語に親しむ活動を計画的に取り入れている。低学年の時期から英語に楽しく取り組むことにより、3年生以上の外国語活動にも活かされている。

3 成果及び子ども・保護者・地域の声など

◎実際に触れ合いや体験を通すことで、感動が生まれ、自分の感じたことを発信できる豊かな表現力につながってきている。

◎体験することで、自ら学び、自ら考え、問題を解決する資質や能力を育成することができた。

- ・いろいろな立場の人と会って、お互いが支え合っていくことが大切だと思った。(子供)
- ・いろいろな野菜を栽培し、その野菜を食べることにより栽培する喜びにつながった。(保護者)
- ・毎朝のパトロールでの交流があり、子どもたちの明るい笑顔と挨拶で毎日元気をもらっている。日々成長する姿は学校・地域の宝物だと感じる。(地域)

所沢市立荒幡小学校

子供たちの心のエネルギーを満たし、「ひとみキラリ、笑顔キラリ、汗キラリ」3つのキラリが輝く、勇気づけに満ちた教育（共育）活動を学校、家庭、地域で推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校は豊かな自然環境に恵まれ、学習の中で自然体験・観察等ができる立地にある。さらに、学校に隣接する荒幡富士など、郷土の歴史を学ぶ教材もある。地域住民の方々や保護者は、地域への愛着や学校への思いも強く、学校に大変好意的で、環境整備や教育活動にも積極的に協力してくださっている。これら地域の教育資源や地域人材を活用し、学習を進めるとともに、体験的な学習を多く取り入れ、児童が意欲的に取り組める学習内容を創造していく。そして、子供が嬉々として登校し、充実した活動の下、満足して下校する学校を創り上げている。



荒幡富士のお話を聞く子どもたち

2 具体的な活動の紹介

- 地域の方々との連携を推進・強化し学習や校外行事の中で、ボランティア活動をはじめとする保護者・地域との協力関係の充実を図る。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症予防を行いながら、地域の方々との連携強化を行った。具体的には、「おやじの会」の方々によるウサギ小屋の改修や町内会の方々による除草作業、クリーンボランティアによるトイレ清掃、ARARE（あらはたりサイクル）による牛乳パックや新聞紙回収等を行いながら地域に根ざした共同体としての学校づくりを行うことができた。また、その様子について、ホームページで公開したり、教職員が児童に周知したりするなどし、地域の方々への感謝の念を育成するようにした。
- 新型コロナウイルス感染症の対策をしっかりと行いながら、専門的な知識や技能を備えた外部指導者を招聘し、子供たちに体験的で多様な学習場面を設定する。
 - ・ 地域や各機関のゲストティーチャーによる学習サポートは、感染症対策をしっかりと行いながら学習を進めた。「荒幡富士」の学習や「平和を語る会」、「薬物乱用防止教室」、「人権の花」植栽など体験的な学習は子供たちの学習意欲の喚起や学習支援に大いに役立っていた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も、新型コロナウイルス感染症予防のため、教育活動や地域との交流や行事も制限されたが、安全に十分配慮し、できる範囲で実施してきた。地域の方々からは「子供たちからの挨拶やお礼の言葉がうれしい。」保護者からは「帰宅した子供が、楽しい活動をしたと話してくれた。」子供からは「地域の方に色々教えてもらってよくわかった。」など肯定的な声が多かった。

所沢市立北小学校

「人のために 教職員も子供も笑顔で

尊敬し合い（愛）協力し合い（愛）力を発揮し合う（愛）

安全・安心な学校」をつくります

1 特色ある学校づくり概要

「なぜだろう」「これでよいのか」「さあやるぞ」という学校教育目標を基に、特色ある学校づくりの宣言を設定した。この目標の具現化に向け、次の5点「(1)生きる力の育成 (2)全教職員による運営 (3)職員研修の充実 (4)教育環境の整備 (5)開かれた学校づくり」について、組織的かつ継続的な学校づくりを推進した。

本校で考える「特色ある学校づくり」とは、「学校教育目標を具現化し、目指す学校像を実現できる」ことである。児童の学ぶ意欲や自ら考えて主体的に判断する力などの確かな学力を育て、児童にわかる・できる喜びを味わわせていくことが重要であり、全ての児童が安心して、生き生きと学ぶ環境を作り上げることが必要不可欠であると考え。その実現のために、本校では特別支援教育の視点に立ち、教育活動の全てにおいてそれを活かし、学習環境及び授業改善を行った。



I C T (Chromebook) を活用した授業風景

2 具体的な活動の紹介

(1) 生きる力の育成・・・落ち着いて張りのある生活

生徒指導・教育相談の機能や特別支援教育の視点を活用し、学級・学年経営を行った。生徒指導委員会・生徒指導職集を定期的実施することで学級・学年の様子を全体で共有し、特別に支援が必要な児童を把握し、「確かな学力・豊かな心・健康や体力をバランスよく身に付けさせる」ことへ繋げた。

(2) 全教職員による運営・・・共に認め合い高め合う教職員

全教職員が学校運営に参加し、教師としての使命を自覚し、一人一人の持ち味と創造性を発揮するために、互いに助け合って教育活動を推進した。週1回（主に火曜日）に学年会の時間を確保し、学年で足並みをそろえることで授業の質と量を維持することにつながった。

(3) 職員研修の充実・・・魅力ある授業の創造、学習指導の充実

「I C Tの活用（主にChromebook）」を学校研究とし、全員が研究授業に取り組み、低・中・高学年・特別支援学級の4つのブロックが公開授業を行った。研究の充実のために、校内研修で、所沢市立教育センターや所沢市教育委員会指導主事及び外部講師の指導を仰ぎながら研究を推進した。

(4) 教育環境の整備・・・心を育てる環境づくり

学校ファームで生活科や総合的な学習の時間を中心に、1年：サツマイモ、2年：ミニトマト、3年：お茶、4年：玉ねぎ、5年：稲・里芋、6年：ジャガイモ、特別支援学級は野菜全般の栽培活動（土づくり・種まき・苗植え・水やり・収穫・調理の体験）を実施した。

(5) 開かれた学校づくり

学校、家庭、地域が相互に連携し子供の健全育成に努め、学校の情報収集を行い、学校事故ゼロの学校として地域の誇りとなる学校づくりを行った。今年度も感染症拡大防止の観点から主な活動が実施できなかったが、次年度は、一昨年度の実践を基に計画し、充実させる。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「I C Tの活用」を校内研修に位置づけ、外部講師を招聘するなどして、校内研修や授業研究を充実させることができた。特に、Chromebookの研修を深め、教員の授業力向上と児童の関心意欲を引き出すことに繋がった。

環境面では、年間を通して花壇に花が咲いている美しい環境を整え、児童・保護者及び来校者の目を楽しませ、高評価だった。

「夢・笑顔・元気があふれる学校」を目指します

— 保護者・地域と連携して地域ぐるみで子供を育てます —

1 特色ある学校づくり概要

- (1) Chromebook や I C T 機器を活用して児童一人一人に確かな学力を定着させる。
- (2) ブックトークの実施や電子化による図書室の環境整備を推進し、読書活動をより充実させる。
- (3) せいしんネットやほうかごところ等と連携して児童を育てる。
- (4) 中高と連携し、相互のキャリア教育の推進を図る。
- (5) 環境教育（ビオトープ）を推進し、充実を図る。



高校との連携～所沢西高校との交流会～

2 具体的な活動の紹介

- (1) 確かな学力の定着
Chromebook や I C T 機器を有効に使い児童が意欲的、主体的に取り組める授業を実践した。I C T 機器についての研修を活かし、欠席している児童と I C T 機器を活用したオンライン学習に取り組んだ。
- (2) 読書活動の充実に関して
昨年度から本格稼働した電子化による蔵書管理を活用し、読書活動・環境の整備を推進した。サポートスタッフや学校司書による読み聞かせや、図書室の環境整理により、児童にとって本が身近になり読書への関心が高まった。
- (3) せいしんネットやほうかごところ等との連携に関して
せいしんネットによる土日教室やきもだめし等のイベントはできなかったが、ほうかごところとは常に感染症への対応や情報の共有を図ることができた。
- (4) 中高との連携に関して
2年ぶりに所沢西高校との交流会を実施することができた。高校1、2年生を中心に30名の生徒が参加し、低学年への授業サポート、高学年へのキャリア教育で交流を深めた。
- (5) 環境教育（ビオトープ）の推進と充実
ビオトープを活用し自然と触れ合うことを通して、心を耕し生きる力の育成を図っている。児童が虫や鳥、草木等の観察から活動を広げ、自分たちで整備しながら、自然から学ぶ学習を展開した。ビオトープの維持管理には教師と児童、保護者が関わり、活動への連携が深まっている。

3 成果及び児童・保護者・地域の声等

G I G A スクール構想に伴い、I C T 機器を活用した学習活動を実践し、保護者とも連携しながら長期休みや欠席時などにも Chromebook を活用した。所沢西高校との交流が再開され、教師よりも年が近いお兄さんやお姉さんと触れ合い、普段よりも生き生きと表現できる児童の姿を多く見ることができた。また、将来教師になりたいと感想に書いている所沢西高生もいた。生活科や総合的な学習の時間で、外部アドバイザーとともにビオトープ整備活動を行いながら、生き物や植物等の観察を主体的に行うことができた。

学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくり

— すべての教育活動は子供たちのために —

保護者や地域に愛され、信頼され、誇れる学校を創造する
時代の要請に対応した特色ある学校づくりを進める
児童の発達段階や実態に合った特色ある教育活動を展開する
組織的、機能的、効果的な学校運営を推進する

1 特色ある学校づくり概要

本校の学校教育目標は、「本気」「勇気」「元気」であり、学校・保護者・地域で子供たちを育てる学校づくりに取り組んでいる。今年度は、教育環境の整備充実、体力の向上、学習指導の充実、生徒指導教育相談の充実に取り組んだ。



4年総合：ダッシュファーム野菜販売

2 具体的な活動の紹介

① 学校ファーム「ダッシュファーム」等の教育環境の整備充実

本校の中庭には、農園が広がっており、栽培活動が盛んである。2～6年生・特別支援学級（かがやき学級）が活用し、白菜、大根、にんじん、小松菜、サツマイモ等を育てた。コロナ禍の中で活動制限はあったものの、昨年度より充実した活動ができ、多種の野菜を収穫することができた。また、4年生・かがやき学級が育てた野菜は、秋に保護者に販売をし、勤労する意欲や豊かな心の育成につながった。

② 校内研修「体育科」による体力向上

校内研修では、「主体的・対話的で深い学びのできる児童の育成」を目指し体育科の研究に取り組んだ。所沢市教育委員会指導主事を講師として招聘し、体育科に関する講義並びに、研究授業を通して具体的な指導をいただいた。5年生「ハードル走」学習では教材を工夫し、既存のハードルの横バーの木をプラスチック板に替える工夫をした。6年生「ソフトバレーボール」、4年生「タグラグビー」の学習ではICTを活用した。特にビデオ機能を使っでの活動は見直しや相互交流するのに有効だった。家庭で取り組む「運動チャレンジ」を毎週発行し、家庭と連携しながら体力の向上に努めた。今後も、教材やICTの環境を整え、児童が主体的・対話的で深い学びの学習ができるように支援をしていきたい。

3 成果及び子供・保護者・地域の声

農園活動は、本校の特色の1つであり、子供達は、土作りから苗作り、水あげ、収穫と一連の栽培活動ができ、貴重な体験活動となった。校内研修「体育科」の研究は、2年目を迎え、研究授業を通して研究を深めることができた。今後も、本校の特色を生かした学校づくりを推進していく。

所沢市立伸栄小学校

本校は、「子供が伸びて、地域が栄える学校」を目指し、
家庭・地域との協育で子供が育つ学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標

やさしく かしこく つよい子
～「家庭・地域との協育で

子供が育つ 伸栄小」～

- 子供が落ちついて学ぶ学校
- 保護者や地域を信頼し、信頼される学校

①②じて ③がお ④っぱい

- 教職員が学び合う学校
 - 清潔で教育的に豊かな環境のある学校
- を目指している。また、「子供たちの『生きる力』の育成」を目指した教職員は、常に、「誠実に、ていねいに、粘り強い」姿勢で日々教育活動を推進している。



開校50周年を迎え、花ボラさんが
デザインしてくださった花壇

2 具体的な活動の紹介

今年度は、昨年度と同様、各教室を中心にこまめにアルコール消毒を行うとともに、定期的な手洗いを生活習慣の一部として組み込むなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底を図りながら、全職員で教育活動を推進してきた。

春・秋には、地域や保護者の方にご協力をいただき、正門前の花壇整備を行い、潤いのある環境、豊かな学校づくりを推進した。今年度は50周年の節目を迎え、花々も50周年を祝福した。(写真参照) また、民生児童委員を中心としたあいさつ運動を行い、家庭・地域との協育で子供が育つ学校づくりを推進した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

昨年と同様、活動が制限され、取組はとても難しい状況ではあったが、感染拡大防止を徹底しながら、昨年度行うことができなかった授業参観や運動会、音楽会等の学校行事を工夫しながら、保護者の方々にご協力いただき行うことができた。「子供の様子が見られてありがたかった」との声が多数聞かれた。また、保護者からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための、様々な対応に対する感謝の言葉が数多く寄せられた。

生き生きと学び高め合う美しい学校づくり

— 自ら学び 心豊かでたくましい子の育成 —

1 特色ある学校づくり概要

本校は全教職員の経営参画のもと学校教育目標「自ら学び心豊かでたくましい子の育成 考える子 思いやりのある子 元気な子」の具現化を目指し、特色ある学校づくりの指針である「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」を推進している。そのためには、教育活動の中心である授業の充実を図っていくことが重要であると考え。本校では、学習指導要領が目指す、知、徳、体のバランスのとれた「生きる力」を育む必要があると考え、常に授業の改善を図り、「わかる喜び」「できた喜び」を味わわせることのできる質の高い授業実践に取り組んでいる。



4年生の天体観望会

2 具体的な活動の紹介

児童一人一人の主体的な授業参加を促し、各教科・領域の学習内容とともにコミュニケーション能力、問題解決能力、情報活用能力など未来を拓く学びの推進に努めてきた。①教育課程の実施：「ユニバーサルデザインを核とする指導」をテーマとした校内研修の取組では、指導者を招聘し研究授業を行い、教師の資質の向上を図るとともに、児童の学力向上に取り組んできた。また、少人数指導や習熟度別指導、高学年では交換授業を導入して、個に応じた指導の充実を図った。②体験活動：コロナ禍により、制約が大きく例年に比べて十分な体験活動ができなかったが、学区内の国立リハビリテーションセンターによる出前授業（5年）や天体観望会（4年）など、各学年で普段の授業では体験できない活動を実施することができた。③地域との連携：図書ボランティアによる定期的な読み聞かせ（月1回）や民生委員によるあいさつ運動など、コロナ対策を講じながら可能な範囲で実施した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

令和3年度の「教育に関するアンケート」での「子供たちが明るく元気に学校生活を送れるように取り組んでいる」は9割以上、「わかりやすく授業を教えている」は8割以上の保護者が肯定的に捉え、保護者の、学校生活や授業に対する関心が高いことが窺えた。今後も「生き生きと学び高め合う美しい学校づくり」の具現化を図り、学校・家庭・地域が一体となった「美原小学校の学び」を推進していく。

「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けた たくましい児童の
育成 を目指し、安全安心な学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

＜学校教育目標＞

- ・思いやりのある子
- ・よく考える子
- ・たくましい子

＜本年度の重点＞

①確かな学力を育む

学習指導要領の確実な実施

②豊かな心を育む

道徳教育・特別活動・人権教育の充実

③体力の向上を目指す

体育・健康教育の充実

音楽会に際し、コロナ禍でも開催できる手立てとして、鍵盤ハーモニカに替わる電子キーボードを20台購入した。

また、本校では、豊かな心を育むために、全校で大根やサツマイモを育てており、学校農園の活動に力を入れている。

さらに、本校の特色として保護者ボランティア活動があげられる。とりわけ、緑化ボランティアの方々には、週1回学校花壇の整備、掲示ボランティアの方には、正門前の校内掲示の作成等、校内環境を豊かにしていただいた。



焼き芋体験での児童の様子

2 具体的な活動の紹介

元校長先生を指導者として招聘し、学校農園を使って栽培した大根を抽選の末、全児童が自らの手で抜き取り体験する取り組みを行っている。今年度は、大根を種から育てる活動を行い、小さい種から大きな大根に育つ様子を体験でき、命の学習につなげることができた。

1・2年生は、学校農園でサツマイモを育てた。元校長先生のご指導の下、芋掘りを行い、保護者ボランティアの手も借りて、新聞紙とアルミホイルで芋をくるんで、焼き芋の準備をした。落ち葉掃きボランティアの保護者が集めた落ち葉を燃やして、焼き芋を作り、食べる体験を行った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

新型コロナウイルス感染症予防対策の中、校外学習や外部指導者の来校がかなり制限されてしまったが、外部から講師として来校いただいたり、ビデオの映像を保育園に送ったりなど、工夫して行うことができた。

今後も、感染状況へ柔軟に対応できる体制づくりを課題としていきたい。また、ボランティアとして学校を支えてくださる地域の方とのつながりを広げていくことも課題である。

家庭・地域と共に「子供たちの未来を拓く力を育てる学校づくり」を推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校では、目指す学校像に「笑顔、感動、花いっぱいの夢道場・中央小」【チーム中央小】を掲げ、家庭・地域と共に教職員の総力を結集して日々の教育活動に励んでいる。そして、子供たちのために教職員は、切磋琢磨し、家庭・地域が信頼を寄せる学校づくりを目指している。地域の方々には、児童の学習支援、安全、環境など様々な支援をいただいている。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、各学年で体験活動を実施した。学校応援団コーディネーターと共に本校の教育活動に関わる全ての方々の自己肯定感を高め、地域と共に歩む学校となるよう努めている。



脱穀作業をする5年生たち

2 具体的な活動の紹介

【学校ファームを活用した栽培体験・自然体験の充実】

学校応援団の皆様の協力のもと、全学年及び特別支援学級でそれぞれ作物の苗を植え、日々の世話や観察、収穫まで1年間を通して行っている。1年生はサツマイモを栽培し、収穫したサツマイモを給食の食材として利用したり、ツルを利用してクリスマスリース作りを行ったりした。5年生は水田での稲作に挑戦し、田植え、稲刈り、脱穀、粃摺りを、機械を使わず手作業で行うことができた。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、収穫祭でお米を食べることはできなかったが、一人一人が家庭に持ち帰り、自分たちが育てた米を食べることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

稲作体験をした5年生児童は、「田植えや脱穀など、初めて体験することばかりだったので、難しかったけど面白かった。お米ができるのが楽しみ。」と達成感と次への意欲を感じる振り返りが多く見られた。収穫祭を参観した5年生の保護者からは、「子供たちにとって、非常に貴重な体験となった。」という感想をいただき、また、学校応援団に参加している地域の方からは「子供たちは、目をキラキラさせてお話を聞いてくれます。子供たちから元気もらっています。」という感想をいただいている。

本校の「特色ある学校づくり」の重点である体験活動を通して、学校、家庭、地域の連携をより強固なものとしていきたい。

ふるさとにします みんなの学校 松井

— 笑顔があふれ 花が咲き 歌声ひびく 松井小 —

汗を流して、たくさん学んで、たくさん遊んだところが、子供にとって「ふるさと」になります。PTA、学校後援会、学校開放委員会と連携して、子供の「ふるさと」になるよう、学校づくりを進めていきます。

1 特色ある学校づくり概要

- ① 「ふるさとにします みんなの学校 松井」をめざし、学校応援団・学校開放委員会・家庭・地域との連携を図り、信頼される学校を創造する。
- ② 特色ある施設を生かした教育活動の推進を通して、学ぶ意欲、自信を育て、確かな学力を育成する。
- ③ 学校課題研究「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開」に取り組み、ICTの活用を通じて「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、学力の向上に繋げる。
- ④ 校務分掌組織の機能発揮による機動力向上を目指すとともに、全教職員の創造性を生かした教育活動を展開する。



地域の方にご指導いただいた芋ほり（1年生）

2 具体的な活動の紹介

- ① 家庭と地域の連携を深め、中学校区内の学校間及び異校種間との連携と交流を促進し、共に役割を担い、子供を育成する「開かれた学校づくり」を目指した。また、関係機関や民間団体等との連携を図り、体験活動【サツマイモ、サトイモの栽培と収穫（ひまわり学級、1年、3年）】、外部ゲストティーチャーを積極的に招聘した授業【埼玉税理士会による租税教室（6年）、埼玉西武ライオンズコーチによるベースボールチャレンジ（5、6年）】を充実させた。
- ② 学校課題研究「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開について、西部教育事務所より指導者を招聘し、ICTの効果的活用を通じた、児童の興味関心を高め分かりやすい授業の推進や、教科の学びを深める大切さについて研修し、授業実践に繋げることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ① コンピュータの使い方に慣れて、勉強に生かしていきたい。（5年女子）
- ② 学校には季節ごとに花がたくさんあって、ほっとする。（保護者）
- ③ 子供たちとの活動から、感動など得るものがたくさんある。（地域の声）

地域とともに歩む学校づくり

— 「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成を目指して —

1 特色ある学校づくり概要

本校では、学校教育目標に、「豊かな心」と「確かな学力」を身につけた児童の育成、目指す児童像として「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を掲げている。

また、学校づくり宣言は「地域とともに歩む学校づくり」であり、「地域の学校」として、地域や保護者から信頼される開かれた学校づくりと学校教育目標の具現化に向け、「ともに学び、実践する学校」をモットーに一丸となって、以下の教育活動に取り組んでいる。

- (1) 「生きる力」を育む教育の推進
- (2) 学校・地域の組織や地域の教育資源を生かした教育活動の推進
- (3) 安全・安心な学校・地域づくりの推進



児童が落ち葉拾いを行っている様子

2 具体的な活動の紹介

- ・週2～3回、業前の時間に「ぐんぐんタイム」と称して、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることを目的とした時間を設定し全校で取り組んでいる。
- ・環境を守るために、敷地内の落ち葉拾いを行っている。例年であれば、保護者と全校児童で一緒に行う行事であるが、今年度については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ保護者と児童をそれぞれ別日に行った。児童と保護者の協力があり多くの落ち葉を拾うことができた。
- ・学校応援団から提供していただいた花の苗を、特別支援学級の児童が花壇に植栽し、敷地内に花がある環境をつくることができた。
- ・スクールガードリーダーの方や、見守り隊の方と日頃から児童の登下校時の安全について、連携、協力し合っている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・「ぐんぐんタイム」で既習事項の復習や、児童の躓きやすいところを重点的に取り組むことで、学習内容の理解につながっている。
- ・落ち葉拾い実施後、地域の方から、学校周辺の落ち葉がなくなり、「大変きれいになってありがたい」という声をいただいた。

地域とともに歩み、自信と誇りある『ふるさと』の 学校づくりを推進します

1 特色ある学校づくり概要

「地域とともに歩み、自信と誇りある『ふるさと』の学校づくりを推進します」をテーマとし、

I 「地域の人々に学ぶ」

II 「地域の自然に学ぶ」

III 「地域の文化に学ぶ」

を特色ある学校づくりの基本理念として、児童、保護者、地域の実態に合わせた体験活動を通して「生きる力」の育成を図ってきた。



運動会 5・6年生 シンクロフラッグ

2 具体的な活動の紹介

(1) ICTの効果的な活用

『主体的』かつ『意欲的』に学習に取り組む児童の育成～効果的にICTを活用した指導方法の工夫～」を学校課題研究主題とし、指導者を招聘して、Chromebookの操作・活用法に関する研修や、授業研究を実施してきた。授業研究は算数科を中心に進めてきたが、その他の教科や活動においても、積極的なICTの活用が進んでいる。端末を家庭に持ち帰り、ビデオ会議ソフトを使って、学級会等も行うことができた。

(2) 感染症対策を講じたうえでの行事の実施

様々な制約がある中ではあったが、各種行事を実施することができた。運動会は、保護者の方に立ち見で観覧いただくことで、児童席を広く確保し、実施することができた。音楽発表会は、学級ごとの発表とし6つのブロックに分けることで、参観人数を制限して実施した。授業参観についても、参観週間を設定し、保護者の方に出席番号で指定された曜日に参観していただくことで実施することができた。

(3) 学校応援団の活動

感染状況を注視しながら、可能な範囲で、「掲示ボランティア」や「図書ボランティア」の方々にご支援いただいた。感染症の影響で、ビオトープ維持活動や「おやじの会」の活動はできなかったが、状況を見ながら活動を再開し、地域の皆様の協力により、児童の体験活動の充実を図っていきたい。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

<保護者の声>コロナ禍で慌ただしい中、なるべく行事が実施されるよう配慮いただき感謝している。

<子供の声>遠足がなくなるかと思ったけど、延期して行けてよかった。

「わかる喜び・できる喜び、豊かなふれあいとぬくもりがあり、教室での居場所がある」
どの子にとっても、明日も来たくなる和田小学校を目指します

1 特色ある学校づくり概要

(1) 特色ある学校づくりの構想

- ①「ほめる教育」の推進
- ②指導を深める授業の充実（学力向上）
- ③豊かな心と人間関係の育成（規律ある態度）
- ④たくましい身体の育成（体力向上）
- ⑤考える力や豊かな心の基盤となる体験学習の推進
- ⑥保護者・地域・関係団体との協働体制の推進
- ⑦道徳の教科化における教育課程の編成



【総合 ゴールボール体験】
ゴールボールと同時に視界なしの体験をし、それでも前向きな生き方と、よりよい生き方を学ぶ。

(2) 具体的な方策

- ①授業研究を中心とした教師の授業力の向上
- ②昨年度までの研究（体育）の継続と深化
- ③新しい生活様式に基づいた授業展開の工夫
- ④指導の一貫性を図るための情報の共有
- ⑤定期的な実態調査と組織的な対応
- ⑥体力の維持を図る活動の工夫
- ⑦新しい生活様式に基づいた体育の授業・行事の工夫
- ⑧教育課程に沿った計画的な体験活動の実施

2 具体的な活動の紹介

(1) 指導を深める授業の充実

- ①児童のよいところを称賛し、学習のねらいを具体的に提示し、児童の言葉でまとめる教科指導
- ②少人数指導やT Tによる学習形態の工夫及び学習支援員等の計画的な配置
- ③適時性に視点を当てた効果的な学習支援

(2) 豊かな心の育成

- ①なかよしアンケートの実施と情報の共有
- ②6年生を中心とした毎朝のあいさつ運動
- ③いじめ防止基本方針の改定
- ④分散型縦割り行事の工夫と実施
- ⑤中学校区で共通した学習規律の設定
- ⑥無言（黙働）清掃による活動の充実

(3) たくましい身体の育成

- ①活動内容や展開を工夫した、新しい生活様式に基づいた体育授業・朝会の工夫と実施
- ②心の健康と体力維持のための、休み時間の分散型運動場・体育館使用
- ③家庭でも取り組める縄跳びカード・ストレッチカードの作成と活用

(4) 体験活動の推進

- ①実際の体験と疑似体験等を取り入れた体験活動計画の見直し
- ②ICTを取り入れた、疑似体験の実施
- ③委員会活動等の日常活動の充実と、活動内容の周知による体験への意欲の向上
- ④点字・ゴールボール等の体験と、そこを起点にした体験のみで終わらない福祉学習の実施

(5) ボランティアの活用

- ①校外学習での見守り活動
- ②校地内外の緑化活動
- ③登下校中の見守り活動

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

地域や保護者の皆様に、日常の中での声かけやノートの丸つけ、登下校の見守り等、学校と同じ方向を見て活動していただくことで、本校の取り組みについてご理解いただける機会になっている。

保護者の皆様から、制限のある生活・制限のある活動について、ご協力をいただきながら考えをすり合わせ、学校と家庭、地域の連携は活動だけでなく、心情的な部分でも図ることができたと考える。

学校、家庭、地域の連携を深め、

元気で明るい学校を目指します！

1 特色ある学校づくり概要

本校は「花と緑と豊かな心」を校訓と掲げ、学校・保護者・地域の信頼関係を培い、三者の連携を図りながら子供達の豊かな感性と生きる力を育む取り組みを実践している。

- ・安全で美しく豊かな教育環境づくりの推進
(安全教育・掲示物・清掃)
- ・確かな児童理解に基づいた個に応じた指導の充実
(積極的な生徒指導)
- ・「報告・連絡・相談」を基盤に、協働による明るい職場
(相手への敬意を忘れない)
- ・家庭、地域、関係諸機関と適切に連携し、信頼される学校
(情報発信・地域行事参加)



5月 さつまいもの苗植え体験



9月 さつまいもの収穫体験

2 具体的な活動の紹介

(1) 授業の充実

「児童が『わかる』『できる』を実感する授業づくり」をテーマに、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、全員が「わかる」「できる」授業を目指すために、授業の導入から全員が授業に参加できることを念頭において授業を構築する研究に取り組んだ。また、授業デザインにおける「焦点化」「視覚化」「共有化」での工夫として、必要感のある課題提示や自己肯定感の向上につながる振り返りの場面等で、ICT教材や機器の効果的な活用を図った。

(2) 体験活動の充実

生活科や総合的な学習の時間において、地域の方や関係諸機関と連携し、農業体験、福祉体験、昔遊び体験、栽培活動等を実施した。心を豊かに生き生きと活動する牛沼っ子の育成につながった。

(3) 学校図書館や本の読み聞かせの充実

学校図書館の本の維持管理や季節ごとの壁面装飾、読み聞かせ等の読書活動は、長年のボランティア支援による本校に根ざした取り組みである。今後、電子化等を図り、より豊かな学びにつなげていく。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○畑でとれたさつまいもが、とっても大きくておどろいた。学校の給食で、スイートポテトやサラダになった。とっても美味しかったです。(子供の言葉より)

地域に根ざし、やさしさと笑顔、意欲にあふれる学校

1 特色ある学校づくり概要

本校は、所沢市の東端に位置し広い農村地帯と区画整理された住宅街を学区内にもつ。保護者や地域住民には本校の卒業生も多く、学校の教育活動に苦勞を惜しまず協力をしてくださる地域性がある。今年度は校長の経営方針のもと「信頼関係のもと、豊かな人間性の育成」「学ぶ喜びを味わわせ、主体的に学ぶ授業の創造」「教職員が一丸となりチーム柳瀬で学校を創る」等の実現を目指す教育活動を行った。



6年生の修学旅行の写真

2 具体的な活動の紹介

①体験的な学習の充実

感染拡大防止のため中止となった行事もあったが、浦和レッズのハートフル学習や埼玉ブロンコスによるバスケットボール学習、3年生によるいちご園の見学など体験的な充実した学習が行われた。

②安全安心な環境づくり

新型コロナウイルス感染症対策としてシャボネットを購入して手洗いの徹底に努めた。防犯ベストやさすまた、催涙スプレー等を購入して不審者に対応できる安全安心な学校づくりに取り組んだ。

③うるおいのある学校づくり

季節に応じた花の苗を購入したり、地域の方にいただいたりしながら花いっぱいの花壇を維持することができた。高枝切りばさみや草刈り用具を購入して学習環境にふさわしい学校づくりを行った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

新型コロナウイルス感染防止のため制限が多い中ではあったが体験活動を充実させたり、地域行事へ可能な限り参加をしたりすることで、地域全体で、心豊かな子供たちを育成しようとする意識の継続が図れた。また校内研修の充実に努め、教師の授業力の向上や論理的思考力を育むプログラミング教育の研究、子供たちの基礎・基本の定着を図った。

保護者アンケートで、「丁寧な先生方の対応に感謝している」「子供が毎日学校に行くのが楽しい」等の声が聞かれた。

地域に根ざした生き生きとした学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校は「思いやりのある子」「たくましい子」「すすんで学ぶ子」を学校教育目標に掲げ、「全教職員の持ち味と創意を活かして組織力・学校力を高め、子どもと保護者・地域の願いに応える特色ある教育の推進をする」を学校経営方針として掲げ、安全で美しい環境の学校・地域とともに歩む学校・ともに学ぶ喜びが味わえる学校を目指す学校像を掲げ、以下具体的に取り組んできた。



2 具体的な活動の紹介

所沢市学び創造アクティブ PLUS を推進し、「教授と活動のバランスに配慮した授業」を目指した。特に算数では、OKJ「教えて考えさせる授業」の授業実践に取り組んだ。東京大学名誉教授の市川伸一先生にご指導いただき、教職員の指導力向上を図ることで、児童の学力向上につなげていった。

また、環境教育を推進し、自然観察園「どんぐりの森」の整備を進めた。今年度は、スクールガーデナーさんや地域の方に協力をいただいて菜の花や花大根の種まきを行い、春にきれいな花が咲くための環境整備を行った。さらに、自家製腐葉土によるカブト虫の育成やめだか池の浄化システムづくり等を子供達とともに進めていった。今後は、図書ボランティアさんのアイデアで、「どんぐりの森お話しひろば（仮称）」の運用を計画している。本校の保護者 OB の家具職員さんに木のぬくもりのある棚やベンチの製作を依頼し、3月の完成を目指している。

めだか池の観察

3 成果及び子供・保護者の声等

- ・本年度も、コロナ禍で、学習や行事等に制限がある中での学校教育となったが、児童、保護者、地域のためにできることを考え、工夫して取り組んでいくことができた。
- ・地域や保護者の方々の協力を頂き、樹木剪定や除草作業やトイレ清掃を行った。地域や保護者の方々に本校の教育活動を知って頂くよい機会となり、学校の「見える化」につながった。また、職員と保護者が地域を意識して落ち葉拾いや剪定を行うことで、周辺住民との信頼関係をより深めた。
- ・スクールガーデナーさんと庁務手が1年間を通して樹木剪定を行ってくれたことで、地域からも見通しのよい、開かれた明るい学校となった。
- ・学校の畑での野菜づくり体験活動や、緑のカーテンの設置、自然観察園「どんぐりの森」の環境整備により、環境教育への意識向上を図ることができた。
- ・今後も「～場を清め、礼を尽くし、時を守る～思いやりのある子・たくましい子・すすんで学ぶ子」の具現化を図り、学校・家庭・地域が一体となり、児童一人一人を確実に伸ばす教育活動を推進していく。

地域に根ざした体験活動と読書活動を重視し、 心豊かな児童の育成を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

本校の学校教育目標は、「心豊かでたくましい子の育成」である。「ともによりよく生きようとする児童の育成」を研究主題とし、道徳の授業を通して、自分の思いや考えを表現できる富小っ子の育成を目指している。

また、地域に根ざした体験活動や多くの人々とのふれあいを通して、児童に感動を与える教育課程づくりを重視し、心豊かでたくましい児童の育成を目指している。



さといもを植える3年生と特別支援学級

2 具体的な活動の紹介

地域に根ざした体験活動として、校区内の専業農家さんたち支援スタッフのご協力を得て、「ふれあい体験農場富小ファーム」を設置している。全学年児童が、生活科や社会科、理科、総合的な学習の時間の中で農業体験活動を行っている。直に土や植物に触れ、額に汗して学ぶ活動から、働くことの楽しさや苦勞、生産することの喜び、人とふれあうことの楽しさを学んだ。子供たちが収穫の際に「大根が体より大きい！重い！」と笑顔で語る姿は、何事にも代えられないほどの価値があると思われる。

また、本校の児童は、課題として小規模校で人間関係が固定化しがちであり、その小グループの關係に身を委ね、自分の思いや考えを表現する力が弱いという点がある。そのため、学校研究を道徳とし、授業を重ねることによって言い方、受け取り方、考え方、人との付き合い方（コミュニケーション能力）の育成を主眼として、授業づくりを行っている。その結果、自分の意見を書いたり発表したり、他の児童の意見を聞くことに対して、意欲の向上が見られた。また、90%に近い児童が学習した道徳的価値に対する生活のふり返りをできるようになり、自分事として道徳的価値を捉えられるような児童が増加した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校研究「道徳」の柱として「コミュニケーション能力の育成」が挙げられる。道徳の授業だけでなく、ふれあい体験農場富小ファームの取り組みは、驚きと発見を繰り返す活動を通して交友関係を広げ、様々な友達や地域の方々と関わる場であり、貴重な体験活動となっている。また、地域の方々や保護者も体験活動や学校環境整備に協力的である。

所沢市立西富小学校

「進んで学ぶ子」「思いやりのある子」「たくましい子」を育成し、 子供たちに「夢と希望」を育み、保護者・地域から信頼される学校

1 特色ある学校づくり概要

本校は、明治9年、宝泉寺を仮校舎として開校し、今年度146年目を迎えた歴史ある学校である。地域には、畑や茶畑が広がり、武蔵野の面影を残す雑木林が点在している。地域の方々の人柄は温かく、そこで育った子供たちも素直で子供らしい子が多い。特色ある学校づくりとして「子供たちに『夢と希望』を育み、保護者・地域から信頼される学校」を宣言し、地域に根差した学校を目指している。

2 具体的な活動の紹介

西富授業スタンダードの定着のために、Chromebookを積極的に活用し、子供が主体的に学び「分かる喜び」を味わえる授業の創造を目指してきた。子供にとって学びがいがあり、通いがいがある学校づくりの実現に努めている。具体的な取り組みとして、特に今年度は、GIGAスクール構想を進めるために購入させていただいた書籍を学年に1冊ずつ配布し研修したことで、学年や経験値を超えて、教員同士でChromebookの使い方を紹介し合ったり、授業を見合ったりして、一人一人がスキルを高め学習のツールの1つとしてChromebookを活用することができた。

子供たちは、Chromebookを使用する機会が与えられれば、みるみる技術を習得し、意欲的に学び、より楽しみながら調べたり記録に残したり、発表したりすることができるようになった。また、どの教員も、GIGAスクール構想と共に西富スタンダードの授業が展開できるよう、引き続き研修を深めていく。

家庭、地域においては、毎月23日を「家読の日」として、親子での読書を啓発している。

7月からは、学習ボランティアによる朝の読み聞かせの活動を再開できた。おかげで、子供たちは、定期的に本に触れる機会を確保できており、落ち着いた1日のスタートを切れている。フラワーボランティアと連携し、今年度は児童の祖母に当たる方も参加して下さるようになった。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

これから変化の激しい社会を生き抜くために学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育てていかなければならない。その点においては、西富小学校では、温かな雰囲気の中、子供たちが伸び伸びと成長している。保護者や地域の方からは「子供たちが作業をしていると話しかけてくれてうれしい。」との声をいただいております。子供たちの純粋で素直な心持が、教職員としても、何よりの励みとなっている。



Chromebook を使って学習する様子

子供が夢をいただく学校

— 子供一人一人の心の中に「ふるさと中富」をつくります —

「ふるさと」とは、子供たちの学びの出発点を象徴的に表す言葉です。
「自分には自分のよさがある。こんな大人になりたい。将来、こんな職業につきたい。」
子供が夢をいただく学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校の「目指す学校像」は、<子供一人一人の心の中に、「ふるさと」が育つ学校>である。三富開拓という歴史をもつ中富地区にあり、豊かな自然と郷土を愛する住民に支えられている。地域性に着目し、子供一人一人の心の中に「ふるさと」を作る教育活動を推進し、全校あげて特色ある学校づくりの実現を図っている。



「三富おろし」の演奏をする6年生

2 具体的な活動の紹介

三富開拓の歴史を学んだ児童が作成した本校独自の「三富おろし」という曲がある。これを6年生が伝承し、音楽会等で演奏している。新型コロナウイルスの影響で鍵盤ハーモニカの演奏が難しかったが、電子式のミニキーボードを購入し、制限なく鍵盤を使用することができるようになった。

この他、地域の農家の方の協力を得て、さつまいもの苗植えと収穫、陸稲の栽培と刈り取り・脱穀等を行っている。地域の特色を生かし、児童は「ふるさと中富」を感じている。



陸稲の刈り取りをする5年生

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

本校は三富開拓の地域にあり、屋上は三富の様子を見学できる場所になっている。地域の方が大変協力的で、子供たちのためにと力を貸していただけるため、多くの体験活動を行うことができている。特に陸稲は水田のない中富地区だからこそその取り組みで、子供の心に残る活動になっている。

また、「三富おろし」の演奏を見ることを保護者・地域の方は楽しみにしている。音楽会で演奏を見た保護者からは、真摯に演奏する姿を見て、感動したとの感想を数多くいただいた。「三富おろし」は毎年、6年生から5年生に引き継がれている。本校の「ふるさと中富」は確実に繋がっている。

保護者・地域と一体となって 豊かな心で学び続ける児童を育てます

保護者・地域と一体となって、「学びあい、はげましあい、高めあう」児童を育て、「安心感・自己肯定感のある学級づくりを土台として、自ら進んで行動する児童の育成」に努めていきます。

1 特色ある学校づくり概要

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした安全安心な学校づくりに努めるとともに、GIGAスクール構想の実現・充実に向けた教育環境の整備に重点を置いて取り組んできた。

また、学校HPを活用して積極的な情報発信を行い、保護者・地域とともに豊かな心で学び続ける児童の育成に努めた。



タブレットスタンドを活用した
オンライン授業

2 具体的な活動の紹介

具体的な活動の1つ目として、GIGAスクール構想の実現・充実に向け、教育環境の整備に重点を置いて取り組んできた。オンライン授業実現に向け、各学級にタブレットスタンドを設置したり、教師用PCの保管や持ち運びなど、教師が簡単ですぐに活用できる工夫をしたりした。それにより、教師の指導や児童の活動の様子、授業の内容を示した板書など、教師の負担が少なく安定して授業配信ができるようになった。11月に実施した「オンラインによる学校公開日」では、Google Classroomによる朝の会や健康観察、授業の配信など、今までにない新しい取組を実践し、その成果を感じることができた。

2つ目として、本校のHPをリニューアルした。児童の活動の様子「いきいきニュース」や給食を紹介「今日の給食」を配信し、今まで以上に積極的な情報発信ができるようにした。また、児童の欠席連絡の入力やGoogleフォームを活用した学校評価アンケートの実施など、様々な形でのHPの活用が行われ、教職員の業務のスリム化にも繋げることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

教職員や児童がタブレットやパソコンを使いやすい環境を整えることで、その活用が積極的に行われ、自然と教職員のICT活用への抵抗感が軽減されるとともに、スキルの向上につなげることができた。また、学校評価アンケートにおいて、保護者から「子供の学習の様子が見られて嬉しかった」「コロナ禍においても学校が工夫した取組を行ってくれることがよかった」などの声が寄せられた。

「丘の学び舎上新井」 笑顔！元気！根気！勇気！

－ 児童・教職員・家庭・地域が共に伸びる学校 －

- ICTを活用し、新学習指導要領に沿って授業を改善します。
- 基礎的・基本的な学習を大切にし、確かな学力をつけます。
- ほうさく村ふれあい自然体験農場などの体験活動を通して、豊かな心とたくましい体を育てます。
- 保護者・地域とともに開かれた上新井小学校をつくりまします。

1 特色ある学校づくり概要

- ① ICTを活用した授業実践
GIGAスクール構想により導入されたICT機器を活用して、効果的な授業改善に取り組んだ。
- ②基礎的・基本的な学習内容の定着
「できた」「わかった」を味わえる授業をつくるため、教職員の授業力を高める研修を行った。
- ③学校農園・学校ファームの取組
学年ごとの取組みで農作物を育てる学習活動を通して、「豊かな心」と「たくましい体」を育てた。
- ④保護者、地域の人材活用で多様な教育活動
さまざまな学習活動、クラブ活動や図書ボランティアなど、スクールサポーターを積極的に活用した。



家庭科の授業でのICT活用

2 具体的な活動の紹介

- ①学年を中心にICTを活用した授業について共に研究を深め、相互に助言し合いアイデアや機器の使い方などを共有することで授業を改善できた。また、他校の実践や研修で得た知見を自校で伝達・共有することで研修を深めた。
- ②基礎的・基本的な学習内容の定着を目指した指導法の工夫改善として、算数科を中心に少人数指導、習熟度別学習を行った。校内研修では、令和2年度の研究成果を踏まえ、さらに研究実践に取り組み指導力を高めた。
- ③学校農園は、生活科、理科、総合的な学習の時間の教材園として計画的に活用する他、食育や環境教育等、教科学習以外でも活用した。
- ④日課表や年間計画などを工夫して、児童の主体的な活動の場・学びの場を増やした。生徒指導・教育相談的な手法を生かし、児童一人一人を大切にしたい授業や教育活動を行い「主体的・対話的で深い学び」を実現させた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声

(1) 成果

GIGAスクール構想により導入されたICT機器を活用した授業を行い、G Suiteなどのネットワーク環境やオンラインドリル、デジタル教科書を利用した授業実践が深まった。教材や児童の考えを提示することで児童の興味関心を引き出し、深い学びにつながった。

(2) 子供・保護者・地域の声等

児童・保護者からは、本校の教職員が児童の学力や体力の向上のために研修を重ね、努力していることが伝わってきているとの声があった。

来校者からは、本校の児童はとても落ち着いて生活しているとお褒めの言葉をいただいたり、子供たちがたくましく育っていることに理解を示す話があったりして、地域の中でも子供たちが見守られ、育まれている。

「き」れいな学校 「た」のしい学校 「の」びゆく学校

1 特色ある学校づくり概要

特色ある学校づくり構想

「き」れいな学校 清潔で明るい校舎 規則正しい生活 落ち着いた学習環境

「た」のしい学校 仲良く生活 元気に活動 真剣に学習、運動

「の」びゆく学校 豊かな心 確かな学力、体力 自律の力、広がる夢

具体的な方策

○地域の教材化と学習活動の連携

○地域や保護者の学習ボランティアと連携した取組

2 具体的な活動の紹介

○地域の教材化と学習活動の連携

1年 トウモロコシの栽培と収穫

2年 サツマイモの栽培と収穫

3年 蚕の飼育

4年 北野天神の木の写生

5組 大根の栽培と収穫



活動の様子 5組 大根の栽培と収穫

○学習ボランティア

全校 PTAやねこの手貸し隊による低学年の読み聞かせ 除草、落ち葉掃き 5年ミシン学習

○その他 学びの場にふさわしい教育環境の整備・充実

➡所沢市GIGAスクール構想推進に伴い、保管庫鍵棚設置等の環境整備

➡支援員を的確に配置し、基礎・基本の徹底と個に応じた指導の充実

➡生徒指導の情報共有の形式を見直し、深い児童理解に基づいた積極的な生徒指導と教育相談の充実

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

(1) 1クラスの人数が多い中、子供の苦手なところや困っていることに目を向け、熱心に支援してくださいました。どうやったら伸びるかを様々工夫しながら支援して下さるおかげで、苦手なことができるようになった。(保護者の声)

(2) 保護者による学校評価「子どもは、楽しく学校に通っている。」とてもそう思う66%、そう思う30.7%、あまり思わない3%、全く思わない0%。

(3) 新型コロナウイルス感染症防止に伴い、指導者を招聘した校内研修ができなかった。来年度は、その回数を増やし、教員一人一人の指導力をさらに伸ばしていきたい。

笑顔と元気 夢と花いっぱい みんなの北中小学校

— 豊かな自然と地域を環境の場として、学校づくりを推進します —

1 特色ある学校づくり概要

- ①総合的な学習の時間や生活科を中心に、環境を生かした学習を進め、体験から学び、環境との共生を考える中で、豊かな心を育む教育活動を展開する。
- ②学力・体力の向上を目指し、学習環境の充実を図ると共に、職員の研修を充実させ、子供たちが学びたくなる場を形成する。
- ③コロナ禍にあっても、「できることを工夫」しながら、様々な教育資源を生かし、児童の体験や多様な教育活動の場を増やす。
- ④北中会（PTAに代わる組織）、保護者や地域の「北中小の子どもを守る会」との緊密な連携をとり、安全で安心な学校づくりを推進する。



書き初め講師による授業風景

2 具体的な活動の紹介

- ① 総合的な学習の時間や生活科において、児童に多くの教育的機会を与えるために、教材（生活科：大根種、チューリップ球根）などを購入し、学習環境の充実を図っている。
- ② 個に応じた指導の充実のために、ミシンボランティアや書き初め指導者を招き、円滑に学習活動ができるようにしている。
- ③ 今年度は、多くの制限があったが、運動会や全校遠足などの行事を通して、異学年交流を図り、相手を思いやる心や助け合う気持ちなど豊かな心の育成を図った。行事に必要な、教材や感染防止のための消毒液なども購入し、できることを工夫しながら活動を進めている。
- ④ 学校農園の活性化を図るため、緑化主任が中心となり植物の栽培に取り組んでいる。肥料を購入し、肥えた土づくりにも取り組んでいる。また、環境整備のための耕運機や草刈り機の燃料も購入している。落ち葉を集め、堆肥づくりをするための、材料も購入している。
- ⑤ 例年実施している、交流給食は実施できなかったが、栽培した大根を地域の方へ配り、感謝の気持ちを伝え、地域の方と信頼関係を築いている。
- ⑥ 校内研修に外部の講師を招き、子供の学びにつながる職員研修の充実を図っている。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

特色ある学校づくり支援事業のおかげで、時期や学習活動に応じて必要なものを速やかに用意することができ、充実した教育活動を進めることができた。特に、今年度は、ミシンボランティアや書き初め講師の方に来ていただき、子供たちの深い学びに繋がる授業の場を設定することができた。

また、新型コロナウイルス感染症対策を徹底するための消毒液や手袋などを購入し、児童が安心して学習活動に取り組めるような環境づくりに役立てることができた。子供や保護者、地域にとって安全で安心な学校づくりを進めることができた。

地域の心のふるさと山口小をつくります

— 地域の教育力を生かした活動 —
山口小スタンダードを確立し、着実な授業展開をする。
地域の教育力を活用し、生きる力をつけさせる。
一人一人のニーズに合った教育を展開する。

1 特色ある学校づくり概要

- 各教科の基礎基本の定着を図るため、所沢市学び創造アクティブPLUSの研究を、さらに充実したものにしていけるように校内研修を進める。「主体的・対話的で深い学び」を意識し、「わかる授業」を実践できる教職員を育て、授業力の向上を図る。
- 生きる力を育む教育を推進するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。その際、なるべく多くの機会に専門的な指導者を招聘し、学習効果を高めていく。
- 校内特別支援教育委員会を充実させ、一人一人の児童理解に基づいた教育活動を展開する。その際、「リーガルマインドをもって、カウンセリングマインドで指導・説得する」という姿勢を重視する。
- 園芸委員会を中心に、各学年学級・緑化ボランティアが連携し、栽培活動や緑化活動を進める。校地内の花壇や学級園の整備を行い、花いっぱい美しい学校づくりと学校ファームの充実に努める。
- ICTの活用を図り、児童に興味関心をもたせ、学習意欲を向上させるとともに、教職員の授業力の向上を図る。

2 具体的な活動の紹介

- 基礎的・基本的な学力の向上
本年度、校内研修で元文教大学教授の嶋野道弘先生を講師に迎え、ブロックごとに行った研究授業の指導及び、一昨年度より携わっていただいた山口小学校のスタンダードについて講義をいただいた。
- 地域の教育力を生かした授業
3年生は2月に山口民俗資料館を訪問し展示物を見学し、民俗資料保存会の方々より地域の歴史・文化について話を聞く機会を設定した。
- ICTの校内研修の実施
年度当初の放課後の時間を使い、情報主任を中心に Google Classroom や Jamboard の使い方、みらいスクールステーション、schoolTact など授業で使用しそうなソフトについて研修を行った。また、夏季研修では、cloud のファイル操作やアンケート入力と作成などを職員でパソコンを操作しながら研修を行った。オンラインでの授業配信も行い、学級閉鎖や登校不安などの児童に向けて学びを確保するため、環境整備とともに準備を進めている。



オンラインの風景

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

<成果>

- 本年度異動してきた職員が多く、授業の進め方に個人差があったが、嶋野先生に「山小スタンダード」の講義をしていただいて職員の共通理解が図れ、1 単位時間の学びのスタイル（「めあて→学び合い（対話・協働）→まとめ・振り返り」）が確立した。
- 情報主任の働きかけにより、放課後自主研修会が多く開かれ、授業の中で ICT が頻繁に使われるようになった。今ではすべての担任が Classroom で連絡をしたり、児童の健康観察を確認したりできるようになった。現在はオンラインに向けて課題の洗い出しと準備を行っている。

<子ども・保護者の声>

- いろいろ制限のある中で、先生方が様々な工夫を凝らして授業を行っていただき、感謝している。コロナ禍でなかなか学校にいけない中、音楽会の LIVE 配信やオンラインでの朝の会を実施し、これから授業も行っていくと聞き、楽しみにしている。（保護者）
- Chromebook を使わない日がないくらいよく使うようになってうれしいです。schoolTact や調べ学習で使ったり、Meet で学校に来られない子とも一緒に学習できたりするのが楽しい。（児童）

地域の香りを大切にし、地域と共にある

「特色ある学校づくり」

1 特色ある学校づくり概要

- (1) 人や自然との関わりを大切にしながら「わかった」「できた」「おもしろい」を実感し、生きる力を育む教育活動をする。
- (2) 児童、保護者、地域、教職員が互いに信頼し、潤いのある教育環境を整え、だれもが誇りをもてる学校づくりをする。



5年生 地域の方からの稲刈り指導

2 具体的な活動の紹介

- (1) 生活科で育ててきた朝顔のつるを活用したリースづくり（1年生）
- (2) 花壇を利用した大根やサツマイモの栽培活動、焼き芋大会（2年生）
- (3) 「荒幡の森探検隊」で季節ごとに探検し、葉の色、虫や鳥の声等、四季を通した自然の移り変わりや自然の豊かさを体験（3年生）
- (4) 車椅子、アイマスクと様々な体験活動を取り入れた福祉体験（4年生）
- (5) 田植えから収穫までの稲の米作り体験活動（5年生）

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

<成果>

- ・植物や野菜の栽培や収穫をとおして生命を大切にする心を醸成し、収穫の喜びを味わわせることができた。
- ・地域の指導者の支援を受け、昨年度はバケツ稲だった稲の生育を泉の森（ビオトープ）で行うことができた。刈り取り、脱穀、精米まで米作りを体験し、食育にもつなげることができた。
- ・保護者ボランティア活動は、5月から開始することができ、教育環境を整えることができた。

<児童の声>

- ・米作り農家の方が手間と時間をかけ、工夫と苦勞をしながらお米を育てていることがよくわかった。これからは、感謝の気持ちを持ちながら、お米の一粒一粒を大切に食べたい。
- ・あさがおのつるでクリスマスのリースが作れてうれしかった。

<保護者の声>

- ・コロナ禍でも多様な学びの機会を設けていただき、ありがとうございます。

<地域の声>

- ・朝の登校時、他の人の通行を妨げないように歩道をあけて通行していてうれしく思いました。

「家庭、地域との連携を深め、地域に根差した開かれた学校づくり・特色ある学校づくり」

- ・ 児童・教職員一人一人が所属感・自己有用感を味わいながら努力している学校
- ・ 児童、教師、保護者、地域の方々の心が通い合う学校
- ・ 社会の変化に対応できる「生きる力」をはぐくむ学校

1 特色ある学校づくり概要

本年度は昨年度に引き続き、学級経営が学力向上につながるとの県学力学習状況調査の結果のもと、所沢市学び創造アクティブ PLUS 基本方針の1つ「一人一人に寄り添い自己肯定感を高めます」を校内研修の中心に据え、校内研究に取り組んだ。校内研究では課題を【「わかった・できた・またやりたい」が実感できる指導法の工夫～望ましい人間関係を育む学級経営の工夫を通して～】とし、毎月の校内研修や全教職員による授業研究を行うことで、児童の自己存在感が更に高まる学級経営・教育活動に向けた取組を行った。



授業研究会（学級会の様子）

2 具体的な活動の紹介

本年度もコロナ禍の影響により、地域・保護者・学校応援団等の学校・家庭・地域の連携活動など、多くの活動が中止となる中、可能な範囲で豊かな心の育成や基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ってきた。

特に、豊かな心の育成では、各種行事の開催時期や方法を検討することで、縦割り活動やつば小フェスティバル等児童の思いを大切にしながら実施した。手本となる上級生と「そのようになりたい。」と思う下級生を育て、椿峰小学校の伝統を受け継いでいく態度の育成が図られた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

地域・保護者の方々からは、「高学年の児童が学校をよりよくしようといきいきと活動している姿が見られる。お手本になっている。」「子供一人一人の個性を大切にしてくれているので子供たちものびのび毎日楽しく通うことができる。」等の声をいただくことができた。今後も児童の自己有用感が高まり、望ましい人間関係のもと地域に根差した開かれた学校づくりを目指してしていく。

所沢市立三ヶ島小学校

家庭・地域の教育力を生かし、感動体験を伴った教育活動を展開し、子供たち一人一人のよさを伸ばし、「三ヶ島を愛する心」を育てる学校づくりを推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校は明治6年に開校した歴史ある学校で、周りには地域の名産の茶畑が広がり、豊かな自然に恵まれている。親子代々で本校の卒業生という家庭が多く、学校応援団の活動も盛んである。学校教育目標「みんなやさしく かがやいて じょうぶな体 まじめな子」のもと、家庭や地域とのつながりの深さを生かし、信頼される学校づくりを進めている。特色ある学校づくりでは「三ヶ島を愛する心の育成」を重点とし、学校ファーム「三ヶ島むくろじ農園」等を活用して取り組んだ。



「三ヶ島むくろじ農園」4年生麦まき

2 具体的な活動の紹介

三ヶ島むくろじ農園では、学年や季節に応じて、地域の特産の里芋や野菜、さつまいもを収穫した。農園協会の方々、種まきから収穫までの全般的な指導に併せて、日々の畑の管理も担ってくださった。休み時間には、子供たちが畑で協会の方と触れ合う姿があり、世代間の交流と愛するふるさとへの思いを共有する機会になった。収穫した野菜等を活用して教科横断的・総合的な学習を深め、販売学習や自校給食にも活用した。

糞谷八幡湿地保存会の方々と感染症対策を協議し、今年度は湿地の稲作体験を校内でのバケツ稲づくりに替えて取り組んだ。保存会の方々には、稲刈りや新米の贈呈等で年間を通して指導に来校していただいた。子供たちは、コロナ禍での稲づくりや感染症対策の大変さ、大切さを学ぶ機会ともなった。

学校研究「主体的に考え、深く学び合う児童の育成」において、学習の基礎・基本を定着させる効果的なICTの活用法について実践を重ねた。児童一人一台のクロムブックの活用に加えて、通信環境や周辺機器を充実させたことで、児童の情報活用能力が向上した。併せて、校内の階段壁面に新たに学習掲示板を埋め込みで複数設置して、日常的な学習環境づくりを整えることもできた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

感染症対策等、安全安心な学校づくりを進めながら、地域人材力の活用を継続することができた。今年度は、地域から学校への励ましや学校だよりへの反響等の声を多くいただいた。「校庭に、明るく楽しそうな子供たちの声に戻ってきて、心地よく、うれしい」こうした声は何よりの励みである。このコロナ禍に、教職員は地域に支えられた学校が担う役割を改めて自覚し、子供たちはふるさと三ヶ島への愛を募らせた。今後も一層、学校応援団・地域と連携を深め「三ヶ島を愛する心の育成」を進める。

「一人一人が主人公」

豊かな心とやる気・自信を育む 若狭小学校

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標の具現化のために、児童と接する時間を大切に、「保護者・地域から信頼される学校」「全ての子供が毎日喜んで登校する学校」「授業を大切にしている学校」「子供の成長が見える学校」を目指した。「交流と体験」を大切に、「ふるさと若狭」を愛する子供を育てる特色ある学校づくりを推進した。

① 確かな学力と生きる力の育成

・伝える力の育成を根幹にした指導と個に応じたきめ細かな指導・特別支援学級との交流教育の充実

② 基本的な生活習慣と社会性を身に付けさせる指導

・あいさつ、返事などの規律ある態度の育成 ・児童の変化を捉える生徒指導・教育相談の充実

③ 共に高め合う教職員

・課題意識を持った研修と実践的な指導力の向上 ・タブレットを活用した教育活動の充実

④ 心を育てる「交流と体験」

・校舎内外の美化と掲示の充実 ・学習林・学校農園を有効に活用した体験活動の充実

⑤ 開かれた学校づくり

・50周年行事に向けた地域と連携した取り組み ・学校応援団や地域の教育力の積極的な活用

2 具体的な活動の紹介

○タブレット（Chromebook）やICT機器を有効活用するための環境整備
HDMI変換器等を用い、各学級へ画面転送やライブ配信などができる環境づくりを行った。

○校内研修の充実

東京学芸大学教職大学院の増田准教授を招き、講演会を行った。また、早稲田大学人間科学学術院の嶋田教授と研究連携を行い、教職員の指導力向上を図った。

○創立50周年記念行事への準備

式典の準備や記念誌の発行、記念品の作成などを、地域の方との協力のもと行った。



ICT機器を活用した授業

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

○タブレットを用いた学習の際、児童の意見等を大型画面に映し出すことができ、学級全体での意見交換に役立てることができた。

○校内研修が充実した。特に教師のファシリテーターとしての役割を学ぶことができた。

○創立50周年記念式典について、学校と保護者、地域が協力して子供たちのために準備できたことがよかった。記念誌や記念品など、子どもたちの心に残るものができた。

すべては子供たち一人一人のために

～子供たちの夢の実現と健やかな成長のために、最善を尽くす学校～

「林小学校プラットフォーム（基盤）」でわかった！できた！のある授業を実践し、子供たちに主体的な学びの力を身につけさせ、子供たちの夢の実現と健やかな成長に最善を尽くす学校づくりを推進します。

わからないこと・知らないことを「わかるようになる」児童を育てます。

できないことを「できるようになる」児童を育てます。

下手なこと（未完成なもの）を「上手になる」児童を育てます。

1 特色ある学校づくり概要

開校46年目を迎える本校には、素直な心と明るい性格の持ち主の児童が多く集う。児童は何事に対しても一生懸命に取り組もうと努力する姿が見られる。

本校の喫緊の課題は、「学力向上」である。日々の授業の中で「わかった！できた！」のある授業実践を積み重ね、「わかるようになる、できるようになる」

児童の育成を目指した。



～1年生を迎える会～

2 具体的な活動の紹介

今年度、新型コロナウイルス感染症に係る対応は2年目を迎えたが、先の見えない感染状況に変わりはない。そこで「一人一人」の児童の学びを大切にし、全員が「できる」ようになるための教材・教具の準備に力を入れた。

まず音楽科では「鍵盤ハーモニカ」の代わりに「ミニキーボード」を購入し、音楽科の学習が充実するように工夫した。次に、ICTを道具として使いこなす授業を構築するためケーブルを準備した。いつでも、どの教室でも、どの教員でも、指導を充実させ、児童一人一人の情報活用能力や創造性を育成することができるようにした。

また、特別活動や総合的な学習の時間の中で、屋外で実施できる緑化作業や環境保全活動では教具を複数準備し、児童がそれぞれ活動できるように配慮した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

「家の人に、自分たちで作った野菜を食べてもらえてよかった。うれしい。」(児童の声)

「コロナ禍、学校行事をあきらめなければならない中、できることを丁寧に実行していただいた。」(保護者)

学校行事の実施内容や開催時期について、職員間で十分に話し合う機会を持つことができた。(成果)

所沢市立宮前小学校

「輝くひとみ、元気いっぱい、花いっぱい」豊かな心のふれあう、
楽しい学校「宮前小学校」実現を推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校では、【楽しい学校】の実現のために、宣言文にもある三つの視点【輝くひとみ、元気いっぱい、花いっぱい】で、豊かな心のふれあう、特色ある学校づくりを推進してきた。

(1) 視点1【輝くひとみ】

- ①子供たち一人一人のよさを伸ばす
- ②支え合う集団をつくる
- ③夢や目標に向けて努力できる

(2) 視点2【元気いっぱい】

- ①安心して活動できるようにする
- ②集中して活動できるようにする

(3) 視点3【花いっぱい】

- ①体験活動を通じて心を育てる
- ②地域と連携して安全で美しい教育環境を整備する



ボランティアとの花の植え付け



ICT機器を使用したプログラミング

2 具体的な活動の紹介

(1) ICT機器を使用した授業

本校では、オンライン授業やプログラミング教育に力を入れ、学校が求められている教育的ニーズに対応し、児童一人一人の能力向上に努めてきた。

(2) 戦争体験のお話を聞く会

児童が、戦争体験を直接聞くことで、戦時中の様子や当時の人々の抱いていた想いを知り、平和への気持ちを高めると共に、他者理解と尊重の重要性について学ぶことができた。

(3) ボランティアとの連携

本校では、地域のボランティアの活動に支えられているところが多い。フラワーボランティア、防犯ボランティア、図書ボランティアが、主体的に本校の教育活動を支援し、花いっぱいであらわせた学校が実現している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

特色ある学校づくりの予算を活用し、本校ならではの教育活動を多く実践することができた。子供たちの実態に合わせ、地域の教育力を学校に取り込むことができたのは、本事業の成果であると考えている。地域からは、学校との連携を望む声が上がっていることから、今後も地域連携を推進していく。

さわやかな挨拶 心に響く合唱 地域に根ざす学校

— 所中三本柱 —

1 特色ある学校づくり概要

学校教育目標は、「心豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「たくましい生徒」である。この目標を達成するために、標題の宣言文を設定した。

「はじめに子どもありき」の学校経営理念のもと、生徒のよさや可能性を「挨拶・合唱・ボランティア活動」で伸ばし、生徒も教職員も生き生きと活動し、誇りに思える（家族に地域に誇れる）学校を目指す。学校・家庭・地域が一体となり、各小学校との連携を図りながら、「自主的な生徒」を育成していく。



所沢警察署員による安全教室

2 具体的な活動の紹介

(1) さわやかな挨拶

- ・毎月第1金曜日に「地域ぐるみのあいさつ運動」を位置付け、所沢小・明峰小へ生徒会本部役員が出向き、小学生とともにあいさつ運動を実施していた。今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、各学校での取組とした。本校では、毎月第1金曜日に生徒会・生活委員会の生徒が正門、西門に立ち、あいさつ運動を実施した。

(2) 心に響く合唱

- ・例年だと、合唱コンクール、三年生を送る会・入学式・卒業式等で下級生の見本となる合唱を上級生が披露し、所沢中学校の合唱の伝統を継承していくことができていたが、今年度は行事自体の中止や縮小で全学年で歌を通してまとまる機会が確保できなかった。しかし、授業では、3密を避けた環境を確保して、昇降口の外や廊下、別教室等で歌の指導を行い、コロナ禍でも工夫を凝らした学習を行った。

(3) 地域に根ざす学校

地域の教育力の活用

—地域の方々を指導者として招聘—

- ・所沢警察署員による安全教室

7月に1年生を対象に所沢警察署員を講師に招き「自転車の安全な乗り方」について講演会を行った。当日はDVDを視聴したり、実際に自転車を使って生徒に実演をさせ、傘さし運転の危険性などについてお話を頂いたり自転車の安全な乗り方について楽しく学ぶことができた。

- ・「命の学習」講演会

1月に3年生を対象に本校の学区にある瀬戸病院の助産師、石川雅美様を講師に招き、「命の大切さ」についてご講演をいただいた。学区にある病院ということで3年生の中には瀬戸病院で生まれたという生徒もおり、より身近なこととして興味をもって講演を聞いていた。また、保護者の参観についても希望をとり、数名の保護者も講演に参加した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校・家庭・地域が一体となって「自主的な生徒」の育成に取り組み、コロナ禍に対応した活動を行い、特色ある学校づくりを推進した。

- ・生徒の声

コロナの影響で地域清掃や祭りがなくなり残念だった。地域に出かけるのは難しかったが、コロナ禍で何ができるかを考えることができてよかった。

- ・保護者の声

コロナ禍の中、修学旅行や体育祭開催、授業参観、個人面談等感染に配慮しながらも進めてくださった、学校に感謝の気持ちで一杯である。

- ・地域の声

地域の行事は、中止となり残念だったが、そんな中でも気持ちよく挨拶をよくしてくれる生徒が多く、地域の絆が深まっている。

本校は、自主・自律の精神をもち心身ともに健全な 生徒の育成を保護者・地域と一体となって実現します

1 特色ある学校づくり概要

本校における特色ある学校づくりは、学校教育目標を具現化するための方策として、生徒を中心に捉え、保護者や地域との連携を密にしながら、様々な教育活動をとおして、特色ある学校づくりを推進した。



対話型芸術鑑賞の様子

2 具体的な活動の紹介

(1) 研修部を軸にしたチームで進める授業改善

週1回定例の研修部会を中心に、指導と評価の一体化を軸に「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進めている。教科の枠ではなく、「子どもを主語にする」授業とは、どのようなものかをチームで考え、実践し、振り返りを積み重ねている。

また、生徒が自ら考え、表現し、学ぶ力を得るために、対話により相手の個性を認めることができる「対話型芸術鑑賞」を定期的に行っている。これにより、生徒同士の温かな人間関係を醸成している。

(2) 美しく、安全、安心な学校環境づくり

保護者、保護者OBで組織している「ひまわりの種の会」をはじめ、学校環境の整備活動にお手伝いをいただいている。また、安全・安心な学校と地域づくり推進支部、新所沢地区青少年を守る会と連携した毎月第1・3月曜日の登校時のあいさつ運動では、多くの方に参加いただいている。

(3) 豊かな心を育む掲示物の工夫

校内至るところに、彩豊かな掲示物や美しい花や緑が配置されている。掲示物により、学校の教育活動や生徒の活躍や成長が分かるように工夫している。生徒作品や美術部生徒による制作物の掲示等、彩豊かで、潤いのある学校環境づくりを推進している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

授業改善が進むとともに、誰もが安心して過ごせる温かな人間関係が築かれている。

保護者からは「朝読書や朝鑑賞など向陽中学校の教育活動の特色としてぜひ続けてほしいです。子どもたちも忙しい毎日を通り越す中で朝のちょっとした時間に現実を忘れ、心を豊かにする時間として、とてもよいことだと思います。」という声をいただいている。

『 はじめに子どもありき』の理念のもと、
『未来を切り拓く生徒の育成』を目指し、
『本気の実験を体験できる美原中学校』を推進します。

1 特色ある学校づくり概要

体育祭・美原祭（合唱コンクール）などの学校行事、校外学習・林間学校・修学旅行などの学年行事が昨年よりも予定・計画に近いカタチで実施するための環境を整備した（消毒用エタノール液・グラウンドで合唱練習をするためブルーシートの購入・美原祭〈合唱コン〉会場を、ウエスタ川越からミューズに変更）



密を防ぐブルーシート上での合唱練習

2 具体的な活動の紹介

- ① 『 学校だより・学校HP 』で、特色ある学校づくりの活動・成果等を伝える。
- ② 『 はじめに子どもありき 』の著者【学芸大学名誉教授・平野朝久先生】を招聘。
年間3回の校内研修（講演・授業参観）を実現。教職員の資質・指導力の向上（子どもを観る視点・授業改善・評価と指導の一体化 等）に効果。
- ③ 新型コロナウイルス感染防止対策
・ 泡ソープ ・ 消毒用エタノール液 ・ パーテーション 等 購入。
- ④ G I G Aスクール構想実施のための環境整備（U S B購入）

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学区小学校や地域自治体との連携は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底・工夫しながら実施できた。昨年度は開催できなかった学校評議員会を、美原祭当日にミューズで開催できた。体育祭・美原祭（合唱コンクール）など多くの学校行事が制限のある実施であり、保護者との直接交流する機会がなかったが、保護者の方々からは子供の成長に繋がる教育活動として評価された（学校評価）。また、PTA本部役員の方々や後援会員の方々・おやじの会会員の方々をはじめ多くの皆様のご支援ご協力のなかで、カーブミラーの設置など『子ども一人一人を大切にす～安全・安心の取り組み～』が適時・適切に取り組めた。

生徒会憲章を実現し

「未来を切り拓く生徒の育成」を目指します

1 特色ある学校づくり概要

「中央中学校の生徒は自分たちの理想とする学校づくりを目指す目標として、次の生徒会憲章を定める。」この生徒会憲章実現に向けて、「挨拶」「返事」「時間を守る」「清掃をしっかりと行う」「正しい言葉遣い」「正しい身だしなみ」「いたわりの対応」の「7つの凡事徹底」を徹底し、しっかりとした生活習慣を身に付け、自己肯定感を高める。



並木小学校正門でのあいさつ運動

2 具体的な活動の紹介

(1) 生徒会による挨拶運動

新型コロナウイルス感染症対応のため、生徒が主体となる様々な活動が大きく制限された。しかし、そのような中でも生徒たちから、できることは何かを考え、生徒会憲章の実現に向けた取組はできないかという意見が活発にあった。そこで、まず本校が伝統的に行っている小学校へ出向いての挨拶運動を計画した。感染対策を考慮し規模を縮小して計画し、並木小学校で実施することができた。取組を通して、生徒たちから中央中学校のリーダーとしての自覚をさらに高めることができた。

(2) 生徒ボランティアによる落ち葉掃き・学校菜園の整備活動

毎朝、ソフトボール部の生徒やボランティアの生徒たちが自主的に落ち葉掃きや挨拶活動を行った。また、自主的に生徒たちが学校菜園の手入れに取り組んだ。参加した生徒たちはお互いのよさを認め合う機会を得てますます積極的な活動につながっている。学校の前を通行する地域の方々から励ましの言葉をしていただき、生徒たちの自己肯定感がさらに高まっている。

(3) 合唱コンクール（所沢市民文化センター）

特色ある学校づくり支援事業の予算を賃借費として充て、所沢市民文化センター ミューズにおいて合唱コンクールを行った。今年度は中ホールの割り当てであったが新型コロナウイルス感染症に配慮し日程を変更して大ホールで行うことができた。様々な学校行事が削減される中、生徒たちは練習を重ね、精一杯の発表をすることができ、参観した保護者からも大きな賞賛の拍手が送られていた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価において以下の成果が確認できた。（肯定的評価の割合）

生徒		保護者	
自分には、よいところがあると思う。	75.6%	生徒が学校へ行くのが楽しいと言っている	85.5%
挨拶やT・P・Oに応じた言葉遣いができる。	94.1%	校舎はきれいで、教育環境が整っている。	95.2%
チャイム着席など時間を守っている。	92.4%	生徒は、すすんで挨拶をしようとしている	86.1%

本校は、「笑顔と活力にあふれ、温もりと居場所がある学校」を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

本校は、今年度開校75年を迎えた。コロナ禍において、制限のある教育活動の中にも関わらず、大変落ち着いた雰囲気の中で、生徒達は学習や学校行事、部活動を始めとした様々な活動に意欲的に取り組んでいる。以下の4点を特色ある学校づくりの視点として、取り組んでいる。

- ① 生徒にとって…「生き生きと学び、安心して通える学校」
- ② 教職員にとって…「互いの持ち味を大切に、協働と感謝のある学校」
- ③ 保護者にとって…「子どもの成長が見え、信頼できる学校」
- ④ 地域にとって…「明るく開かれ、応援したくなる学校」

2 具体的な活動の紹介

- (1) 合唱コンクール…ミューズを会場に、午前と午後に分け、順位は付けずに「発表会」として開催した。マスク越しではあったが、生徒の歌声と感動がホールいっぱいに響き渡った。
- (2) 体育祭…内容を縮小し、学年別に開催した。感染症と熱中症対策を講じる必要があり、例年と時期をずらして実施した。保護者が参観した数少ない行事となり、生徒の活気ある姿と笑顔があふれた。
- (3) 修学旅行…当初計画していた時期をずらし、さらに泊数を縮小して実施した。昨年度は全ての校外学習を中止としたが、今年度は全ての学年で校外学習に出掛けることができた。(1年：飯能、2年：①川越 ②東京(浅草・両国・上野))
- (4) 部活動…PTAや愛校会の温かい支援を受け、多くの部が大会で活躍した。特に駅伝部は市内予選を連覇し、栃木県にて開催された関東大会で8位入賞を果たした。コロナ禍による限られた練習時間の中で、健闘した。



合唱コンクール



修学旅行



駅伝関東大会

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・保護者の声…コロナの中、校外学習を実施できてとてもよかった。今後も感染症対策をしながら、実施する方向でお願いしたい。
- ・地域の声…登校時に挨拶をする中学生が増えた。中学生を見習って、挨拶をする小学生も増えた。微笑ましいことである。

地域と共に育つ学校づくり

— 自信と誇りをもち、未来にはばたく東中(がっちゅう)生徒 —

1 特色ある学校づくり概要

創立75周年を迎えた本校では「清新で魅力ある東中学校づくり」を経営理念に据え、「自信と誇りをもち、生きる力を身に付けた生徒」「①自ら学び、互いに高め合える生徒を育成する。(知) ②自己を見つめ、思いやる心をもち、協力できる生徒を育成する。(徳) ③心身ともに健康で、進んで実行できる生徒を育成する。(体)」を目指す生徒像としている。



75周年記念 屋上からの記念写真

教育目標は「自立と貢献」であり、これを学校・家庭・地域で共有して、目指す生徒像の実現を目指している。協力的な地域の方々の厚意により、多くの教育活動が支えられ、協働体制も築けている。特色ある学校づくりを通して、「自信と誇りをもち、未来にはばたく東中生徒を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進した。

2 具体的な活動の紹介

- ①学び創造アクティブPLUSのねらいに迫る授業の展開の研究を進め、特に Chromebook を積極的に活用することで、生徒の主体的な学びに迫る研修を行った。生徒一人一人のよさを伸ばし、個に応じた、主体的な学びが成立する授業の工夫改善を進めた。また、少人数指導(数学科・英語科・保健体育科)により、生徒一人一人の学力向上に向けた授業展開の工夫を図った。
- ②基礎基本の定着、家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の手引きと家庭学習ノートの活用、年3回の基礎学力テスト(東中検定)を実施した。また、毎日の落ち着いた学校生活を作り出すため、全校一斉の朝読書を推進した。
- ③コロナ禍でも臨機応変に対応し、創立75周年記念式典、体育祭や合唱コンクールなどの学校行事、それに伴う映像配信を実施するなど、学校、保護者、地域が一体となった教育活動を推進した。生徒が生き生きと活躍できる場を提供して感動ある体験を実施し、自信と誇りをもちたせることにつながった。
- ④子どもたちの安全を守るため、新学期スタートに合わせ「PTA」で登校する生徒へのあいさつ運動を実施した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

今年度も新型コロナウイルス感染拡大対策を図りながら、創立75周年記念事業を含め、地域と共に育つ学校づくりを運営することができた。できる限り教育活動の様子を、学校から発信することで保護者、地域との連携をコロナ禍でも、さらに進めることができた。今後も、生徒や教職員が地域と共に活動を行うことで、生徒に活躍の場、学校と地域の方々との交流の機会を増やしていきたい。

地域の香りを大切にし

地域とともにある特色ある学校づくり

1 特色ある学校づくり概要

本校では『地域の香りを大切にし、地域とともにある「特色ある学校づくり」』の推進を目指し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育成するために、「所属感」「存在感」「一体感」「達成感」を味わわせ、潤いと笑顔と歌声のあふれる安松中を目指して教育活動を進めている。本年度の重点として、①「主体的・対話的で深い学び」を通じた授業改善②心がほっとする学級・学年・学校づくりを柱としている。また校内研修テーマとして「傾聴力と主張力をもち、自ら考え、積極的に物事に取り組む生徒の育成」を掲げ、総合的な学力とともに、心豊かな、思いやりのある生徒の育成を目指している。



感染症対策をしながらの体育祭

2 具体的な活動の紹介

<学校生活>

- ・授業では、生徒が自ら考えを持ち、仲間と伝えあう取組において、今年度はホワイトボードを活用した。授業改善により、傾聴力と主張力は、成長させることができた。
- ・感染予防を徹底するために、教職員で手作りしたパーテーションを、生徒の机1つ1つに設置することができた。
- ・夏場、換気をしながらも冷房効果を維持するため、教室のベランダに、日よけとなる緑のカーテン（ゴーヤ）を生育することを、生徒の委員会活動が中心となって取り組んだ。
- ・新しいトイレをきれいな状態で保つため、掃除用具を随時購入し、生徒が毎日の清掃に積極的に取り組める環境を整えることができた。

<学校行事>

- ・体育祭では、保護者が観戦できない中の取組であったため、インターネットを活用して配信することができた。
- ・合唱祭の練習では、各学級の合唱練習が充実できるように、音響機器を増やすなどの対応をした。管理を生徒の係活動で行い、自主性も高めることができた。
- ・密にならない条件の下、思い出に残る三年生を送る会をするために、生徒の実行委員が自分たちの意見を出し合い、ビデオ撮影などを利用し実施できた。

<地域との活動>

- ・今年度は「ボランティアカード」を作成し、所沢市環境美化の日の生徒参加を促すことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・傾聴力と主張力をもち、自ら考えることで、自分の考えと他者との考えを比べ、意見を交換し、他者の考えを理解出来るようになってきた。
- ・今年度は、参観などが難しかったため学校生活の様子を見ていただくことができなかった。しかし、学校ホームページで毎日2枚の写真を掲載し続けたことから、保護者の皆様から大変好評を得ることができた。
- ・地域の皆様から、毎月の学校だよりで、生徒の様子がよくわかるとお褒めいただいた。

「地域に根ざし 地域とともに歩む

安全安心な学校づくり」の推進

1 特色ある学校づくり概要

「地域に根ざし 地域とともに歩む 安全安心な学校づくり」の推進をした。そのために、

- ア 学力向上のための指導の充実
- イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集
- ウ 柳中農園の活用
- エ 地域と連携した学校行事の充実
- オ 安全安心な学校づくりのための点検・防犯活動並びに指導の充実

これらの実現に向けて職員一人一人が学校運営に積極的に参画し、社会の変化に対応しながら毎日の教育活動に取り組んだ。

2 具体的な活動の紹介

ア 学力向上のための指導の充実

埼玉県学力・学習状況調査、全国学力・学習状況調査、所沢市ステップアップ調査の結果を活用し、基礎学力の把握と学習指導の改善に生かした。

イ 生徒・保護者・地域社会への情報発信と情報収集

生徒・保護者・地域に本校の教育のねらいとその現状を広く周知するため、学校だより・各種たより等を配布した。また、通知やPTA活動について、学校ほっとメールで周知することができた。

ウ 柳中農園の活用

約1000㎡の農園の一層の活用を図り、1学年の総合的な学習の時間にジャガイモの栽培を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、おやじの会の外部ボランティアとの協力が困難であった。

エ 地域と連携した学校行事の充実

新型コロナウイルス感染症防止のため、地域行事への積極的な参加を促すことができなかった。また、農園授業・職場体験・柳瀬地区合同体育祭・合唱コンクール等について、縮小または中止して実施した。

オ 安全安心な学校づくりのための点検・防犯活動並びに指導の充実

- (1) 学校の施設設備に関する安全点検活動は、年1回の総点検と定例点検を行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染症防止のため柳瀬中・柳瀬小・東所沢小の合同ヤナセ会議を、縮小して実施した。
- (3) 感染症対策のため、校内の消毒作業を徹底して行った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

(1) 成果

地域との合同体育祭は中止となったが、生徒のみの学年別体育祭を開催した。新たな種目を追加し、競技に全校生徒が参加できた。

(2) 子供の声

柳中農園で栽培したジャガイモを家に持ち帰り、親と調理して家族で食べたことで、さらに家族の絆が深まった。また、収穫した野菜は給食の食材にも使われ、貴重な経験と貢献ができた。

(3) 地域の声

3学年の合唱発表会は、保護者観覧のもと、所沢ミュージズで開催できたことは大変よかった。また、1・2学年の合唱発表会も保護者観覧のもと、体育館で開催し、子供の成長を見る機会を提供できた。



—説明—

10月29日（金）所沢ミュージズで3年合唱発表会を行った。どのクラスも日頃の練習の成果を十分に発揮することができた。

自ら課題を見つけ、他者との関わりを通して意欲的に解決していく生徒 ～地域とともに歩み、笑顔あふれるあいさつ、豊かな心でいっぱいの学校づくり～

1 特色ある学校づくり概要

(1) 共に学び考える生徒の育成

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等その他の能力を育むため、学び合い、自分の意見を伝え合えることができるアクティブ・ラーナーを育成する研究に取り組んだ。

(2) 豊かな感性と社会性を持つ生徒の育成

ノーマライゼーション教育の理念に基づき自らの生き方を考えさせると共に、全教育活動を通して本校の教育方針である3つの心（しん）「進取、親切、辛抱」の心を鍛える活動に取り組んだ。

(3) 活力あるたくましい生徒の育成

体験的な活動と地域との連携を通して、自尊感情を高めながら、ふるさと富岡を愛する心を育成する教育活動に取り組んだ。



研究授業の様子



体育祭の様子

2 具体的な活動の紹介

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善の実施

「考えを深める対話」の研究では、授業のどの場面で、どのような方法で、どんな手立てをとるのか考え授業改善を進めた。また、一人1回以上の研究授業を行い、教科の枠を取りはらい他教科教員で指導案の検討をしたり、授業を参観したりした。

埼玉県学力向上研究校指定事業を受け、埼玉県教育局西部教育事務所や所沢市教育委員会の指導主事から指導を受け、授業改善を行った。取組の成果を、西部地区の小中学校に発表報告した。

(2) 豊かな感性と社会性を持つ生徒の育成

生徒自ら富中人権宣言を生徒総会で発表し、互いの人格や個性を尊重し合うことを確認し、平素からいじめのない温かい人間関係づくりに努めた。また、新型コロナウイルス感染防止のため特別支援学校との交流教室は行えなかったが、障害のある方からの講演を聞いたり車イス体験をしたりした。

(3) 伝統と活力あるたくましい生徒の育成

感染防止対策をとっての体育祭であったが、生徒一人一人が活躍できる場をつくり、成就感や達成感を味わわせることができた。

本校の特色である「ふれあいチャレンジ in 富岡」では、新型コロナウイルス感染防止のため1日だけではあるが、農業体験を通して、働くという心構えを学ぶことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

生徒授業アンケートによると、「自分の意思を伝え、相手の意見や先生の話聞くことで考えを深めているか。」については、教科によってばらつきはあるが、昨年度より伸びてきているため、研究の成果が出ていることがわかる。

保護者対象学校評価では、「わかりやすい授業」の項目で「とても思う」「まあそう思う」が80.8%と昨年度から7%高い評価をいただいた。このことから今後も、学校・家庭・地域で一体となって教育活動を続け、学力・豊かな心・たくましい身体をバランスよく育んでいく。

主体的にたくましく生きる生徒活動

— 地域と共に、きれいな学校・元気な学校づくり —

1 特色ある学校づくり概要

本校は「主体的にたくましく生きる生徒」を学校教育目標とし、その達成のために、生徒一人一人が活躍できる場や行事を設定し、個性の伸長を図るとともに奉仕の精神や地域の一員としての意識の育成に力を入れている。特色ある学校行事を生かして知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成し、粘り強く最後まで頑張る「小手中魂」の伝統を継承し地域と共にきれいな学校・元気な学校づくりを目指している。



体育祭

2 具体的な活動の紹介

(1) 「生徒一人一人を大切にする授業の創造」

- ①「本時のねらい」の明示。『わかる授業は最大の生徒指導』に基づいた全教師の日々の授業の創造。充実感が味わえ、学習意欲の向上と自己肯定感を高められる授業の創造。
- ②職員研修の充実、教科部会の研修
教科部会は週1回開き、授業進度・指導内容等の確認を行い学習の指導力向上に努めた。

(2) 小・中の9年間を見通した教育の推進

- ①生徒指導・教育相談・相談室の情報交換
- ②キャリア・パスポートを活用した進路・キャリア教育

(3) 「主体的にたくましく生きる」を目指した学校行事

- ①1年校外学習（1日） 2年校外学習（1日） 3年修学旅行※中止 卒業遠足（1日）※予定
- ②体育祭：限られた練習時間・半日の体育祭だったが、生徒は一生懸命取り組んだ。
- ③合唱祭：マスク着用での練習・実施という悪条件の中でも、生徒は高い意識をもって取り組めた。
- ④三年生を送る会

(4) 基礎学力の向上 ①朝学習 ②授業始業時の前時に復習 ③定期テスト前学習

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

学校評価保護者アンケートでは、「生徒は、自分なりの目標を持って学校生活を送っている」が82%、「生徒は、体育祭・合唱祭に熱心に取り組んでいた」が95% 「生徒は、学校行事を経験して少しずつ成長してきている」が93% の評価をいただいた。学校で生徒は達成感や充実感を味わい、着実に成長し、保護者からも高い評価を得ている。

所沢市立北野中学校

北野中学校は 「志を持ち、共に高め合う生徒の育成を目指し、
地域と共に成長する学校づくり」を推進します。

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「進んで学び、心身を鍛え、協力して働き、生きる力を伸ばす生徒」という学校教育目標の具現化のため、保護者や地域の方々の協力により、行事や体験活動を行い特色ある教育活動を展開している。本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため縮小したが、地域の環境を生かし、地場産業のお茶を学ぶ茶道教室、学校農園の運営等数多くの体験的な学習を実施した。



職場体験学習～自衛隊の方々～

2 具体的な活動の紹介

(1) 体験活動（総合的な学習の時間）

第一線で活躍する方々を講師に招き、1年生は「地域に学ぶ、働くということ」をテーマに茶道体験・地域を知る（産業・文化・自然・人）。2年生は「自然に学ぶ、学ぶということ」をテーマに自然体験学習、上級学校出前授業、進路学習。3年生は「古都に学ぶ・生きるということ」をテーマに世界遺産古都京都奈良を学ぶ・福祉学習（点字・視覚障害・認知症サポーター養成講座）・進路選択決定の学習を進めた。（令和3年度は自然体験学習、修学旅行は中止）

(2) 社会体験チャレンジ事業（職場体験・1年）

会社や店舗等に出向いての体験は中止し、「職場体験学習」として6業種の方たちに来校していただき、出前授業を実施した。各業種の方とふれ合いながら業務や職業観について体験を通して学んだ。

(3) 学校ファーム

特別支援学級では、季節に合った野菜を育て収穫し保護者への販売や調理実習を行っている。また、PTAや後援会の協力で、大根やサツマイモ等を栽培し、体育祭にて販売し好評であった。

(4) 行事（体育祭、合唱コンクール）

本校の行事は、地域や保護者の支援や協力により実施されている。体育祭では当日の補助、合唱コンクールの保護者受付、毎年大勢の参観者による温かい声援に生徒は励まされ力一杯活動している。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- 成果：今年度も感染蔓延防止のため、活動の中止や縮小しての実施となったが、制限された中で工夫した結果、生徒の学校アンケートにおいて約94%が体験活動に関して高評価をした。
- 保護者の声：宿泊学習や行事が中止や縮小になりましたが、その代わりとして先生方が工夫くださったおかげで、子どもたちにとってよい思い出となった。
- 地域の声：制約があるものの、保護者や関係機関と連携した教育活動が計画・実践され、子ども達の豊かな心が育まれている。

豊かな教育活動を通して、「共に高めあう心豊かな生徒」の育成を推進します。

「『誰もが居場所のある』山口中」を推進していきます。

1 特色ある学校づくり概要

本校では、豊かな教育活動を通して、学校教育目標「共に高めあう心豊かな生徒の育成」の実現に取り組んでいる。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、生徒指導の3機能を土台に教育活動を行った。学習環境や学校行事を工夫して活動を通し、「誰もが居場所のある山口中」の達成に取り組んだ。



ICTを活用した授業風景

2 具体的な活動の紹介

(1) 学習環境の工夫と学力向上

各教科で安全・安心な授業が行える環境整備を行った。教室の机、椅子、窓等のアルコール消毒の徹底、仕切り板の設置し、生徒が安心して授業に取り組める工夫をした。

今年度は、ICTの整備を進め、GWEという新しいシステムを通して授業改善に取り組んだ。各教科で先生方が率先してシステムを使い学習することで「誰もが居場所のある山口中」の授業の展開を実践した。

(2) 学校行事の工夫

コロナ禍での活動のため、体育祭やPTA事業（サーカス観戦）などの各行事は学年ごとに実施した。活動が制限されている中でも、生徒が主体の活動を目指し、クラスでは共感的人間関係を土台にした取り組みを行い、主体性や協調性を育んだ。イヤホンやHDMIケーブルを使い教室でChromebookを活用した授業が充実した。

(3) 小中連携・地域の教育力

情報交換会を通して小学校との連携を図り、不登校生徒等、生徒指導上課題のある生徒の把握と課題解決のための方策を共有した。本校の教育活動を、家庭や地域に発信し、連携の強化を図った。

特に「学校だより」は、月の行事予定を入れるなどより充実させた。学校メールを活用し、不審者情報だけでなく、コロナ禍で学校の教育活動がどのように行われているかなど、情報発信を積極的に行った。安全で安心な学校をつくるために、関係機関と連携し、地域ぐるみの「あいさつ運動」（毎月第1月曜日）、いじめ撲滅のための標語やポスター作製などを実施した。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

消毒の徹底やこまめな換気により、安全な学習環境で教育活動が行えた。生徒は、ICTを活用した授業を通して自分の居場所を見つけることができた。保護者の方からは、「今年度は学校メールが頻繁に届き、学校の様子を知る機会が多くあった」「学校側の様々な配慮により、今日まで自分の子どもが何事もなく過ごすことができたことに感謝します」「コロナ禍で厳しい中修学旅行や林間学校を実施してくださって感謝します」など、学校に感謝するご意見を多くいただいた。

「小中連携・地域活動参加により、 自主自律の気風を育てる」

- 行事等、様々な体験活動を通じて、心豊かな生徒を育む。
- 地域活動に積極的に参加し、地域との絆大切にする生徒を育む。
- 環境美化や地域の体験を通して、環境を大切にする生徒を育む。

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「小中連携・地域活動参加により、自主自律の気風を育てる」という特色ある学校づくり宣言を掲げている。「狭山丘陵の雑木林」「トトロの森」「菩提樹のたんぼ」「柳瀬川の源流」など歴史と文化に恵まれた環境を背景に急速に発展してきた。

本校の生徒は、緑に囲まれた美しい環境の学校と進んであいさつのできる学校を誇りにもって、日々、生き生きと活動している。本年度の学校教育目標は、①自ら学ぶ生徒、②心豊かな生徒、③言動に責任をもつ生徒、④健康でたくましい生徒の4つである。特に健康でたくましい生徒に重点を置き取り組んできた。

2 具体的な活動の紹介

今年度は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられる中でも、いかに生徒が身につけた力を表す場を設定したら良いかを学校全体で考え実施してきた。特に、体育祭や合唱コンクールの2大行事については、学年競技会としての実施や、校内学年別合唱コンクールとして、実行委員会を中心にICTを駆使しながら、取り組むことができた。生徒の成果発表の場としての、新しい行事のあり方について考えるよい機会となった。今年度の取組が基本となって、これからのwithコロナの時代へとさらに発展させていけるよう職員一同取り組んでいきたい。また、地域との交流においては、11月より地域清掃の実施、また、外部講師の招聘による1学年での福祉学習等、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら実施することができた。昨年度よりも、地域の方々との交流の場を通じた体験をすることができ、大きな成果と言える。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

上山口中で昔から行っている川清掃は、SDGsにもつながる取り組みであると改めて感じた。地域の方々と一緒に、身近な自然をきれいに保っていくことは、自然と共存していく上でとても大切な事だと感じている。(生徒)



11月実施 川清掃の様子

未来知を拓く三ヶ島中学校

— まなぶ ひらく つなぐ —

- 1 わかる喜びを実感できる授業を実践し、「学びに向かう力を高める学校」
- 2 社会で生活するために必要な「考える力を伸ばす学校」
- 3 行事や学校活動全般を通じて「体験し、経験から成長する学校」

1 特色ある学校づくり概要

家庭・地域と連携を図りながら、生徒の社会的自立を支援するために、1では学び手の視点に立って「わかる・できる喜びが実感できる授業」を実践し、指導方法の工夫改善に努める。2では5年間の『朝鑑賞』で育んだ思考力・表現力を主体的・対話的で深い学びの授業の中で活用できるようにする。3では各行事や総合的な学習の時間などで体験的な活動を行い、生徒の自己肯定感が高められるようにする。



体育館工事を通し、建設業とは何かを学ぶ生徒達

2 具体的な活動の紹介

1・2では、学び創造アクティブPLUSアクティブ研究校の取組として、生徒が自ら学び「わかる・できる」授業づくりは、『フィードバックが学力向上のカギとなること、授業後の生徒の姿を想像すること、授業のねらいや活動を精査すること』が必要であると山森光陽先生からご示唆いただいた。そこで、全校で学習カードを導入し、教師が適切な評価を行うことで、生徒が学びの成果や課題を把握し、自己認知を高めた。また、主体的・対話的で深い学びを通し、生徒の学びに向かう力を育んだ。3では、本校の特色である「自己肯定感」を育む教育の実践として、1・2年生の総合的な学習の時間にキャリア教育に取り組んだ。多種多様な職業に触れ、自分らしい生き方を実現するための土台を培った。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

1・2の取組後のアンケートでは、「学習が生活の中で役に立つ」と捉える生徒が1～15%増えた。タブレット等を用いて興味や関心に応じた自学を行うなど、自ら学ぶ姿勢に繋がっていると推察される。

3では、自校の体育館工事に携わる市職の方と体育館を見学し、自校の施設を大切にしようとする気持ちを多くの生徒に育めた。これらの成果が、勤労への関心だけでなく、自己肯定感や自尊感情を高めることにも繋がっている。子供たちからは、『将来働く時に、弁護士さんから今日学んだ「責任」と「最後までやり通す力」を胸に頑張りたい。』『声優さんの絵本の読み聞かせで「あなた自身がプレゼント」という言葉がすごく心に残った。今、生きているだけでも幸せなことだと改めて実感した。たった一人の私を大切に生きていきたい。』などの感想が寄せられた。

『夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり』

1 特色ある学校づくり概要

本校は、「夢と誇りと思いやりを持ち、自ら考え、判断し、行動する生徒の育成を目指し、地域と共に育つ学校づくり」を推進している。生徒の生きる力を育むために「思考力（考える力）」を土台とし、「自ら学ぶ生徒（学ぶ意欲）、心豊かな生徒（思いやる心）、たくましい生徒（継続する力）」を育成する教育活動を推進する。また、小中連携、家庭、地域との連携を深めながら、地域に根差した教育活動を展開している。



野菜販売・県境整備作業の様子

2 具体的な活動の紹介

①教科指導を要に全教育活動を通して「学ぶ意欲」を育成する。

本年度、学習指導要領が全面実施となった、研修図書等を購入し、「指導と評価」について、研修を実施し、生徒の学力向上を図ることができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続校内での合唱コンクールとなったが、開催することができた。合唱コンクールの活動を通じて、生徒の自主性を高めることができた。

②道徳の時間を要に全教育活動を通して「思いやる心」を育成する。

道徳の時間を学年で統一した。教材研究を深めることにより、道徳の授業の質を高めることができた。また、体験学習では、学校ファームを活用した体験学習を行った。自然を愛護する心を培うだけでなく、学校公開日で野菜を販売することにより、勤労・生産・販売の体験を行うことができた。

③小学校や地域との連携を深め、地域に根ざした教育を推進する。

出前授業、生徒指導・教育相談情報交換会等の充実を図り、小学校との連携を深め、生徒・保護者・地域が一体となった行事として充実させていくことができた。また、安全・安心会議を中心に、地域や関係機関等の連携を強め、信頼される学校をつくることができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

沢山の野菜、大きな野菜が収穫できたのも、ボランティアさんの協力のおかげです。ありがとうございました。（2年生との感想）ミュージズでの合唱コンクールは叶いませんでしたが、体育館の発表を見ることができてよかった。（3年生保護者）

「みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園」

を目指します。

1 特色ある学校づくり概要

本園の教育目標は「元気な子」「優しい子」「頑張る子」である。目標達成のために実体験を大切に、心豊かに生きる力の基礎を育てる幼稚園づくりを図っている。

- ・ 幼児の心身の調和的な発達を育成する。
- ・ 家庭や地域の方々に信頼される幼稚園づくりを推進する。
- ・ 安心安全な環境づくりの推進を図る。

※荒幡地区の自然に恵まれた教育環境や地域の人材を幼稚園教育に生かし、家庭との連携を図りながら「みんなの笑顔が集まる所沢第二幼稚園」を目指している。



ミストを浴びながら、水遊びをした。子供たちは「気持ちいいね。」と楽しんで遊んでいた。

2 具体的な活動の紹介

- ・ 園庭にミストやベンチを設置し、熱中症対策を行い安心して過ごせる環境を作った。また、ミストを使用し暑い時期は、水遊びも行い、気持ちを解放して水遊びを楽しんだ。
- ・ 夏野菜（キュウリ・ナス・ピーマン・ミニトマト）の苗植え、当番活動での水やり、観察や収穫、年長組の大根の種まきや収穫、年少組の二十日大根の種まきや収穫、チュウリップの球根植え、ヒヤシンスの水栽培など、実体験を通じた保育を行い、幼児の興味や関心が深まった。植物や虫の名前、虫は何を食べるかなど、図鑑などを使って調べている姿が見られた。
- ・ 年長組は竹馬、年少組は竹ぼっくりに取り組んだ。出来るようになりたいという気持ちが育った。また、頑張っている姿を友達や職員に認められることで、自己肯定感が高まった。
- ・ いきものふれあいの里センター、吾妻図書館、エコクラブと連携し、保護者参加の「森の図書館」を荒幡富士で行った。荒幡の自然の中地域の教育力を活用し親子で絵本を楽しむことができた。

3 成果及び子供・保護者・地域の声など

- ・ 植物の生長や生き物の観察など、実体験を通しての経験ができたことでなど、心身の調和的な発達を促し、心豊かに生きる力の基礎が育った。
- ・ 地域の教育力や自然を活用して、ふるさと所沢を愛する心を培うことが出来ました。
- ・ 子供たちは「竹馬でいろいろな技に挑戦したよ。」「高い竹馬のれたよ。」と嬉しそうに話していた。

